

(様式第 10)

久大病 (管) 第 30 号
平成 28 年 10 月 3 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 神代 正道 (印)

久留米大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法 (昭和 23 年法律第 205 号) 第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則 (昭和 23 年厚生省令第 50 号) 第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒830-0011 福岡県久留米市旭町67番地
氏 名	学校法人 久留米大学 理事長 神代 正道

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

久留米大学病院

3 所在の場所

〒830-0011 福岡県久留米市旭町67番地 電話 (0942) 35-3311

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 <input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 神経内科 2 呼吸器内科 3 消化器内科 4 心臓・血管内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 呼吸器外科 2 心臓血管外科 3 消化器外科 4 形成外科 5 小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科		⑮麻酔科	⑯救急科			

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科 2 小児歯科 3 矯正歯科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 病理診断科 3 美容外科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
53床	床	床	床	972床	1,025床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月1日現在)

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	人	人	人	看護補助者	88人	診療エックス線技師	人
歯科医師	人	人	人	理学療法士	23人	臨床検査技師	76人
薬剤師	67人	人	67人	作業療法士	10人	衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	8人	その他	人
助産師	42人	1人	42.8人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	947人	20人	963人	臨床工学士	21人	医療社会事業従事者	18人
准看護師	5人	人	5人	栄養士	1人	その他の技術員	37人
歯科衛生士	4人	1人	4.5人	歯科技工士	1人	事務職員	144人
管理栄養士	12人	人	12人	診療放射線技師	51人	その他の職員	49人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年9月1日現在)

専門医名	人数	専門医名	人数
総合内科専門医	人	眼科専門医	人
外科専門医	人	耳鼻咽喉科専門医	人
精神科専門医	人	放射線科専門医	人
小児科専門医	人	脳神経外科専門医	人
皮膚科専門医	人	整形外科専門医	人
泌尿器科専門医	人	麻酔科専門医	人
産婦人科専門医	人	救急科専門医	人
		合計	人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (志波 直人) 任命年月日 平成28年4月1日

平成23年4月1日より平成24年3月31日まで医療安全管理部長として従事

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	814.8人	16.7人	831.5人
1日当たり平均外来患者数	1732.9人	83.5人	1816.4人
1日当たり平均調剤数			1595.4 剤
必要医師数			188.4人
必要歯科医師数			7人
必要薬剤師数			28人
必要(准)看護師数			481人

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	1546.99m ²	鉄筋 コンクリート	病床数	61床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	483.43m ² 台	病床数	41床	
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	79.8 m ²			
化学検査室	468.78m ²	//	※別紙のとおり			
細菌検査室	198.36m ²	//	※別紙のとおり			
病理検査室	108.98m ²	//	※別紙のとおり			
病理解剖室	56.53m ²	//	※別紙のとおり			
研究室	17744.17m ²	//	パソコン			
講義室	1612.50m ²	//	室数	17室	収容定員	1,257人
図書室	2838.18m ²	//	室数	6室	蔵書数	273,629冊程度

(注)1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

主な設備

		機 器	
化学検査室	生化学	グルコース(2台)	
		グリコヘモグロビンHA-8181(2台)	
		臨床化学自動分析装置 LABOSPECT008(緊急検査)	
		臨床化学自動分析装置 LABOSPECT008	
		自動浸透圧測定装置オズモステーション	
		呼気中13CO2分析装置(POCONE ピロリ検査)	
		ラピッドポイント500(2台) 血ガス	
		自動分析装置ディメンション Xpand-HM	
	血清	イムライト2000XPI	
		自動化学発光酵素免疫分析装置 SphereLight wako	
		エンドトキシン、β-グルカン測定装置トキシノメーター MT-5500、拡張モジュール2台	
		全自動蛍光免疫測定装置ミュータスワコー i30	
		バイダス30	
		ステーション	
		全自動カテコールアミン分析計	
		全自動化学発光酵素免疫測定システム ルミパルスPresto II	
		免疫	全自動酵素免疫測定装置 AIA-2000 全自動酵素免疫測定装置 AIA-360
			アーキテクトi2000 SR
	コバス8000e602(2台)		
	一般	便潜血、尿中、髄液定量自動測定装置 QUICK RUN	
		尿化学分析装置クリテック ノーバス	
	凝固	移動式免疫発光測定装置 パスファースト	
		全自動血液凝固分析装置コアプレスタ(2台)	
	輸血	全自動輸血検査装置オートビュー イノーバ	
	輸血	全自動輸血検査装置オートビュー イノーバ	
	細菌検査室	細菌検査	ウォークアウェイ 96si(2台)
			TaqMan PCR検査システム「オート」システムB コバスAmpliPrep+コバスTaqMan48
コバスTaqMan48			
自動同定感受性検査装置 バイテック2コンパクト60			
自動培養自動分析バクテックFX Stack400			
病理検査室	病理検査	密閉式自動固定包埋装置(VIP6)	
		自動特殊染色装置(Ventana NX-SS System)	
		自動免疫染色装置(Ventana BenchMark XT)	
		自動免疫染色装置(ライカボンドIII)	
		自動HE染色装置(Ventana Symphony)	
		自動染色装置(サクラティッシュユットテックDRS-2000)	
病理解剖室		解剖台	
		カメラ、モニター	

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	82.5%	逆紹介率	87.9%
算出根拠	A: 紹介患者の数		19,824人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		22,980人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,753人
	D: 初診の患者の数		26,154人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
計画書の提出あり					
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無		有・無
委員の選定理由 公表の方法	計画書の提出あり	有・無

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
骨髄細胞移植による血管新生療法	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
十二種類の腫瘍抗原ペプチドによるテーラーメイドのがんワクチン療法 ホルモン不応性再燃前立腺がん(ドセタキセルの投与が困難な者であって、HLA-A24が陽性であるものに係るものに限る。)	2人
経胎盤的抗不整脈薬投与療法 胎児頻脈性不整脈(胎児の心拍数が毎分百八十以上で持続する心房粗動又は上室性頻拍に限る。)	1人
放射線照射前に大量メトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	0人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	2人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	急性冠症候群に対する緊急心臓カテーテル治療	取扱患者数	79人
当該医療技術の概要 急性心筋梗塞や狭心症などの急性冠症候群に対するカテーテル治療は救命センターの重要な役割である。当センターでは循環器専任スタッフが常時勤務しており、24時間体制で緊急カテーテル検査を行い、その後の呼吸循環管理を中心とした集中治療管理を救命センター内で行っている。昨年度も搬入24時間以内に79例の緊急カテーテルを行い良好な成			
医療技術名	脳卒中に対する緊急脳血管造影検査。および血管内治療	取扱患者数	51人
当該医療技術の概要 くも膜下出血や脳梗塞などの脳卒中に対する緊急脳血管造影検査は救命センターの重要な役割である。当センターでは脳神経外科専任スタッフが常時勤務しており、24時間体制で緊急脳血管造影検査を行い、脳動脈瘤へのコイル塞栓術、脳梗塞への血行再建術などを行い、その後の集中治療管理を救命センターで継続している。昨年度は51例の緊急脳血管造影検査をおこない、良好な治療成績を上げている。			
医療技術名	敗血症性ショックに対する集中治療管理	取扱患者数	55人
当該医療技術の概要 各種感染症や消化管穿孔など様々な基礎疾患に続発する敗血症性ショックは、急性腎障害など多臓器不全を合併することも多く、2次病院では対応できない重症病態である。救命センターでは近隣2次病院から多くの敗血症性ショックの症例を常時受け入れ、呼吸循環管理や急性血液浄化など集中治療を行い良好な治療成績を上げている。			
医療技術名	婦人科がん患者に対するテーラーメイドペプチドワクチン療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 標準的治療に対して抵抗もしくは再発した患者に対し、個々の患者に適したペプチドを投与する テーラーメイドがんワクチン療法を行う。			
医療技術名	胎児異常に対する外科的治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 胎児胸水、下部尿路閉塞による尿閉に対し、胎児～羊水腔シャント術を行う。			
医療技術名	ミトコンドリア脳筋症(MELAS)に対するL-アルギニン治療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 ミトコンドリア脳筋症の一種型であり脳卒中様発作を主徴とする難病MELASの治療については、世界的にみて有効な治療法は見いだされていない。古賀靖敏を主任研究者とするL-アルギニン療法は、MELASの急性期治療および発作寛解期の脳卒中様発作の予防治療として注目されており、現在、医師主導治験が終了し、承認申請を行っている。この治療法は、臨床研究として、久留米大学で医師主導治験を行っており、現在もその治療を継続している。この治療法で2つの特許を取得している。			
医療技術名	ミトコンドリア脳筋症の遺伝子診断	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 臨床的にミトコンドリア脳筋症を疑われた症例のミトコンドリアDNAの検索依頼が全国の臨床施設からなされ、久留米大学医学部小児科の研究室でDNAを分離し、点変異の解析および、16, 6kbのミトコンドリアDNAの全塩基解析を行っている。			
医療技術名	ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウム治療法	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 高乳酸血症は、種々の難治性神経・代謝疾患で観察される重要な病態であるが、この治療薬は今だ世界に存在せず、その病態を踏まえた新しい治療薬の開発が熱望されている。ピルビン酸ナトリウム(PA)治療(Mitochondrion 2007;7:399-403)は、ミトコンドリア病の細胞モデルで細胞死を防ぐ効果があり、臨床研究でもジクロロ酢酸に勝る乳酸の軽減効果と臨床的有効性がある事を報告した。現在は、工業用試薬を使用しているが、最終的には医薬品として上市する計画で班研究を進めている。効果的治療法が開発されなければ、細胞死が惹起され、患者では後遺障害、QOLの悪化、リハビリや社会復帰のための医療費増大などが起こる。この治療薬の開発は、患者のQOLを改善するのみでなく、患者の社会参加、医療費抑制、社会における経済効果の浮揚に大きく貢献できると考えられる。この研究は、国が定めた種々の指針を遵守し、特に医薬品開発を目的とした「医薬品の臨床試験の実施の基準に対する省令」を遵守し行う。			
医療技術名	ミトコンドリア病のスクリーニングとしてのFGF21とGDF15の測定	取扱患者数	200人
当該医療技術の概要 ミトコンドリア脳筋症の診断は、非常に難しく、適当なバイオマーカーも存在しない。我々は、ミトコンドリア病の診断・重症度に有用な新規バイオマーカーであるGDF15を発見し、特許申請した。この新しい評価法を検証するために、ミトコンドリア病が疑われる患者の検体を用いて、GDF15並びにFGF21の測定をサービスで行い、臨床的な貢献を行っている。			

医療技術名	脳保護を目的とした低体温療法	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要			
<p>体温を軽度低体温に維持することで心肺蘇生後や重症頭部外傷での脳保護をねらう医療技術。導入期・維持期・復温期を通して鎮静下に人工呼吸器管理、循環管理を行うため、極めの細かい集中治療の装置とマンパワーを必要とする。</p>			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数	疾患名	患者数	
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	ベーチェット病	139
2	筋萎縮性側索硬化症	22	57	特発性拡張型心筋症	117
3	脊髄性筋萎縮症	13	58	肥大型心筋症	0
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	5
5	進行性核上性麻痺	11	60	再生不良性貧血	106
6	パーキンソン病	655	61	自己免疫性溶血性貧血	32
7	大脳皮質基底核変性症	11	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4
8	ハンテントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	200
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	4
10	シャルコー・マリー・トウス病	11	65	原発性免疫不全症候群	7
11	重症筋無力症	207	66	IgA腎症	0
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	63
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	91	68	黄色靱帯骨化症	103
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	26	69	後縦靱帯骨化症	346
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	6
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	1
17	多系統萎縮症	13	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	85	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	10
21	ミトコンドリア病	8	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	59	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	32
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	1
26	HTLV-1関連脊髄症	30	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	2	83	アジソン病	13
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	242
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	67
31	ペスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	126
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	12
34	神経線維腫症	50	89	リンパ脈管筋腫症	3
35	天疱瘡	205	90	網膜色素変性症	1
36	表皮水疱症	15	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	19	92	特発性門脈圧亢進症	7
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	11	93	原発性胆汁性肝硬変	175
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	12
40	高安動脈炎	1	95	自己免疫性肝炎	148
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	146
42	結節性多発動脈炎	24	97	潰瘍性大腸炎	400
43	顕微鏡的多発血管炎	36	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	21	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	7	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	23	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	76	102	ルピンシユタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	343	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	215	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	32	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
52	混合性結合組織病	81	107	全身型若年性特発性関節炎	6
53	シェーグレン症候群	515	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	38	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	14	161	家族性良性慢性天疱瘡	6
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	1	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	121
113	筋ジストロフィー	28	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	29	167	マルファン症候群	37
118	脊髄髄膜瘤	13	168	エーラス・ダンロス症候群	3
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウイルソン病	28
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	2
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	5
130	先天性無痛無汗症	1	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	1
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	3
133	メビウス症候群	1	183	ファイファー症候群	1
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	1	185	コフィン・シリウス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	1
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠律てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	11
144	レノックス・ガストー症候群	21	194	ソス症候群	2
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	11
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	3
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治類回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	4
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	40	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	18	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	13	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	4	209	完全大血管転位症	11
160	先天性魚鱗癬	6	210	単心室症	27

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	6	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	22	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	104	263	脳腫黄色腫症	1
216	両大血管右室起始症	28	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	2	266	家族性地中海熱	11
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	55	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	10
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	15
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	8	274	骨形成不全症	18
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	6
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	2	277	リンパ管腫症/ゴーンハム病	1
230	肺胞低換気症候群	4	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	2
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	4
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	302	283	後天性赤芽球病	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	4	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	4	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	1	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	22	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	10
244	メーブルシロップ尿症	5	292	総排泄腔外反症	1
245	プロピオン酸血症	8	293	総排泄腔遺残	3
246	メチルマロン酸血症	22	294	先天性横隔膜ヘルニア	3
247	インゴ草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	27
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	2
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性肺炎	0
251	尿素サイクル異常症	33	299	嚢胞性線維症	1
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	16
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	20
254	ホルフィリン症	2	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	2
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	28

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	データ提出加算
歯科外来診療環境体制加算	退院支援加算2
歯科診療特別対応連携加算	退院支援加算3
特定機能病院入院基本料	精神疾患診療体制加算
臨床研修病院入院診療加算	精神科急性期医師配置加算
救急医療管理加算	救命救急入院料1
超急性期脳卒中加算	救命救急入院料4
妊産婦緊急搬送入院加算	特定集中治療室管理料1
診療録管理体制加算2	ハイケアユニット入院医療管理料1
急性期看護補助体制加算(50:1)	総合周産期特定集中治療室管理料
療養環境加算	新生児治療回復室入院医療管理料
重症者等療養環境特別加算	小児入院医療管理料2
無菌治療室管理加算1	緩和ケア病棟入院料
無菌治療室管理加算2	精神科急性期治療病棟入院料1
緩和ケア診療加算	
精神科身体合併症管理加算	
摂食障害入院医療管理加算	
がん診療連携拠点病院加算	
精神科リエゾンチーム加算	
栄養サポートチーム加算	
医療安全対策加算1	
感染防止対策加算1	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊娠管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	
精神科救急搬送患者地域連携紹介加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行加算)	検体検査管理加算(IV)
糖尿病合併症管理料	国際標準検査管理加算
がん性疼痛緩和指導管理料	遺伝カウンセリング加算
がん患者指導管理料1	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
がん患者指導管理料2	植込型心電図検査
がん患者指導管理料3	胎児心エコー法
外来緩和ケア管理料	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	ヘッドアップティルト試験
糖尿病透析予防指導管理料	人工臓腑
外来リハビリテーション診療料	皮下連続式グルコース測定
がん治療連携計画策定料	長期継続頭蓋内脳波検査
がん治療連携管理料	神経学的検査
認知症専門診断管理料	補聴器適合検査
肝炎インターフェロン治療計画料	小児食物アレルギー負荷検査
薬剤管理指導料	内服・点滴誘発試験
検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	センチネルリンパ節生検(単独)
医療機器安全管理料1	CT透視下気管支鏡検査加算
歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)	画像診断管理加算1
在宅患者歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)	遠隔画像診断
在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	ポジトロン断層撮影
持続血糖測定器加算	ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影
造血器腫瘍遺伝子検査	CT撮影及びMRI撮影
遺伝学的検査	冠動脈CT撮影加算
HPV核酸検出及びHPV核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)	大腸CT加算
心臓MRI撮影加算	心臓MRI撮影加算
検体検査管理加算(I)	抗悪性腫瘍剤処方管理加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
外来化学療法加算1	羊膜移植術
無菌製剤処理料	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
心大血管疾患リハビリテーション料(I)	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	網膜再建術
運動器リハビリテーション料(I)	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
呼吸器リハビリテーション料(I)	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
がん患者リハビリテーション料	上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
歯科口腔リハビリテーション料2	上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
精神科作業療法	乳がんセンチネルリンパ節加算2
精神科ショート・ケア「大規模なもの」	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)経皮的冠動脈形成術
精神科デイ・ケア「大規模なもの」	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	経カテーテル大動脈弁置換術
医療保護入院等診療料	経皮的冠動脈ステント留置術
エタノールの局所注入(甲状腺)	経皮的中隔心筋焼灼術
エタノールの局所注入(副甲状腺)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(電池交換を含む。)
透析液水質確保加算2	植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
一酸化窒素吸入療法	植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
CAD/CAM冠	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
歯科技工加算	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	補助人工心臓
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	経皮的大動脈遮断術
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術	ダメージコントロール手術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術	体外衝撃波胆石破砕術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)	外来放射線治療加算
腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)	高エネルギー放射線療法
生体部分肝移植術	1回線量増加加算
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	強度変調放射線治療(IMRT)
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	画像誘導放射線治療(IGRT)
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	定位放射線治療
同種死体腎移植術	保険医療機関間の連携による病理診断
生体腎移植術	病理診断管理加算2
膀胱水圧拡張術	口腔病理診断管理加算2
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	クラウンブリッジ維持管理料
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	歯科矯正診断料
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	入院時食事療養(I)
胎児胸腔・羊水腔シャント術	
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	
胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	
輸血管理料 I	
輸血適正使用加算	
自己生体組織接着剤作成術	
人工肛門・人工膀胱造設前処置加算	
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
歯周組織再生誘導手術	
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
麻酔管理料(I)	
麻酔管理料(II)	
放射線治療専任加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	6回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 34 例 / 剖検率 8.76 %

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
※別紙1のとおり				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計137件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額		補助又は委託元
1	ゲノム科学の総合的推進に向けた大規模ゲノム情報生産・高度情報解析支援	山本 健	医化学	4,000,000	補委	文部科学省
2	ヒトにおける加齢に伴うエピゲノム変化の捕捉とその病的意義の解明	山本 健	医化学	1,200,000	補委	日本学術振興会
3	光合成細菌がもつ高い抗酸化力を示す直鎖状ケト化カロテノイドの疾病予防効果の評価	原田 二郎	医化学	800,000	補委	日本学術振興会
4	食道癌の時空間的オミックス解析による進化と多様性の解明	山本 健	医化学	500,000	補委	日本学術振興会
5	多発性硬化症生体試料バンクを活用したアジア人特有の遺伝環境因子探索による病態解明	山本 健	医化学	650,000	補委	日本医療研究開発機構
6	分子遺伝疫学的解析による痛風の病態解明とゲノムテーラーメイド医療への応用	山本 健	医化学	500,000	補委	日本学術振興会
7	分子遺伝学的解析を活用したヒト腸管上皮における尿酸排泄機構の解明	山本 健	医化学	350,000	補委	日本学術振興会
8	血圧変動性増大が大動脈瘤進展を助長する分子機序の解明	甲斐久史	医療センター 循環器内科	500,000	補委	久留米大学学術研究振興基金(ミレニアムボックス)
9	FIB/SEMによるミトコンドリアダイナミクスに 関わる3次元超微構造変化の解明	太田啓介	解剖学講座顕微解剖・生体形成部門	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費基盤研究(C)
10	FIB/SEMによる生体組織メソスケールストラクチャー解析の最適化および応用研究への基礎整備	中村桂一郎	解剖学講座顕微解剖・生体形成部門	5,900,000	補委	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
11	全身の結合組織線維芽細胞のFIB/SEMトモグラフィによる三次元超微形態解析	中村桂一郎	解剖学講座顕微解剖・生体形成部門	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費基盤研究(B)
12	三池炭塵爆発によるCO中毒患者の身体機能解析と見守りが必要な高齢者へ応用可能な動作解析装置開発の研究	星野友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	100,000	補委	厚生労働省
13	三池炭塵爆発によるCO中毒患者の身体機能解析と見守りが必要な高齢者へ応用可能な動作解析装置開発の研究	谷脇考恭	呼吸器・神経・膠原病内科	100,000	補委	厚生労働省
14	上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験	牛嶋公生	産婦人科	1,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
15	早期子宮頸がんに対する準広汎子宮全摘術の有益性を検証する研究	牛嶋公生	産婦人科	650,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
16	骨髄炎感受性の新規遺伝的リスク要因としてのHLA/KIR多様性の解析	矢原 寛子	歯科口腔医療センター	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費(研究活動スタート支援)
17	脱灰象牙質を用いた骨再生とその界面組織の3次元超微構造解析	田上 隆一郎	歯科口腔医療センター	900,000	補委	文部科学省科学研究費若手研究(B)
18	口腔扁平上皮癌における血中循環腫瘍細胞(CTC)の臨床的意義とプロファイル解析	中村 守敏	歯科口腔医療センター	900,000	補委	文部科学省科学研究費若手研究(B)
19	FGF抑制因子Sprouty/Spred によるエナメル上皮腫増殖制御機構の解明	武富 孝治	歯科口腔医療センター	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費基盤研究(C)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額		補助又は委託元
20	癌・免疫のクロストーク機構および免疫バイオマーカー解析による乳癌治療戦略の検討	関 直子	歯科口腔医療センター	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費 基盤研究(C)
21	ヒト声帯粘膜の幹細胞システムの解明	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,200,000	補委	文部科学省
22	脂肪幹細胞を用いた声帯再生の基礎研究	梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,900,000	補委	文部科学省
23	中咽頭癌における治療効果予測因子としてのYB-1遺伝子発現の解明	坂崎 友	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	500,000	補委	文部科学省
24	培養口腔粘膜を用いた組織工学的手法による声帯再生	千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補委	文部科学省
25	ロコモティブ・シンドローム合併心臓血管病の早期診断とハイブリッド運動療法の介入	佐々木健一郎	循環器病研究所	1,690,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
26	大動脈解離病態解明への挑戦:ストレス防御の分子機構とその破壊	青木浩樹	循環器病研究所	1,950,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
27	動脈弾性板の形成・破壊の分子機構とその動脈疾患における役割	青木浩樹	循環器病研究所	1,150,000	補委	公益社団法人 車両競技公益 資金記念財団
28	先進的画像診断による肺高血圧症の新たな評価法の確立	田原宣広	循環器病センター	1,690,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
29	DCLK1は嗅神経内分泌腫瘍細胞のstemness形質を制御する	池園 友	消化器内科	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金:若 手研究(B))
30	ウイルス肝炎を含む代謝関連肝がんの病態解明及び治療法の開発等に関する研究	川口 巧	消化器内科	3,900,000	補委	国立研究開発法人日本医療研 究開発機構 感染症実用化研究 事業(肝炎等克服実用化研究事 業)
31	炎症性腸疾患および炎症性発癌に対する新規テリハリーシステムを用いた治療法の開発	竹田津 英稔	消化器内科	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金:基 盤研究(C))
32	炎症性腸疾患のサロゲートマーカー、治療標的としてのTRPレセプターの臨床応用	山崎 博	消化器内科	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金:基 盤研究(C))
33	肝癌由来TCF-4 isoformにはWnt5a/b 発現の分子スイッチが内在する	古賀 浩徳	消化器内科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金:基 盤研究(C))
34	肝細胞癌の腫瘍血管に特異的なマイクロRNAを標的とした血管新生抑制療法の開発	鳥村 拓司	消化器内科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金:基 盤研究(C))
35	自己組織化ペプチドハイドロゲルを用いた効率的な肝再生細胞療法開発のための基礎研究	中村 徹	消化器内科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金:基 盤研究(C))
36	腫瘍AMPKの血管新生阻害剤耐性への関与及び治療効果予測と治療標的としての可能性	岩本 英希	消化器内科	2,470,000	補委	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金:若 手研究(B))
37	腫瘍AMPKの血管新生阻害剤耐性への関与及び治療効果予測と治療標的としての可能性	岩本 英希	消化器内科	600,000	補委	石橋助成金
38	潰瘍性大腸炎合併大腸癌の早期発見のための分子イメージングの開発	光山 慶一	消化器内科	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金:基 盤研究(C))

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額		補助又は委託元
39	極低出生体重児の超音波検査による早期栄養確立	木下正啓	小児科	2,200,000	補委	文部科学省:科学研究費基金(若手研究(B))
40	アウトカム評価とバイオマーカー指標に基づく子どもの心の診療システムの構築	永光 信一郎	小児科	600,000	補委	文部科学省:科学研究費基金(基盤研究(C))
41	小児摂食障害におけるアウトカム尺度の開発に関する研究	永光 信一郎	小児科	450,000	補委	厚生労働科学研究費補助金(健やか次世代育成総合研究事業)
42	レット症候群モデル動物及びES/iPS細胞による自律神経システム異常の研究	原 宗嗣	小児科	1,300,000	補委	文部科学省:科学研究費基金(若手研究(B))
43	小児期発症脊髄性筋萎縮症に対するバルプロ酸ナトリウム多施設共同医師主導治験の実施研究	弓削 康太郎	小児科	4,000,000	補委	日本医療研究開発機構(難治性疾患実用化研究事業)
44	注意欠如多動性障害児の行動療法による包括的治療法の開発と二次障害の予防	弓削 康太郎	小児科	500,000	補委	公益財団法人メンタルヘルス岡本記念財団
45	発達障害の神経科学的基盤の解明と治療法開発に関する研究	山下 裕史朗	小児科	900,000	補委	精神・神経疾患研究開発費
46	発達障害への包括的治療によって母親療育レジリエンスは改善するか?	山下 裕史朗	小児科	1,100,000	補委	文部科学省:科学研究費基金(基盤研究(C))
47	うつ状態の改善に関連する要因に関する研究	藤枝 恵	神経精神医学	435,000	補委	平成27年度田中健記念研究助成事業
48	内科診療所受診者における自殺予防に関する疫学研究	藤枝 恵	神経精神医学	2,340,000	補委	文部科学省科学研究費補助金:基盤研究(C)
49	内科診療所におけるうつ病診療ガイドラインの作成	藤枝 恵	神経精神医学	1,040,964	補委	文部科学省科学研究費補助金:若手研究(B)
50	外傷性ストレスからの回復過程を予測する客観的指標の探索	大江美佐里	神経精神医学	1,170,000	補委	文部科学省科学研究費補助金:基盤研究(C)
51	睡眠医療及び睡眠研究用プラットフォームPASMを用いて実施する臨床研究ネットワーク、運用システム、リソースの構築に関する研究	内村直尚	神経精神医学	500,000	補委	精神・神経疾患研究開発費(三島和夫班)
52	アルドステロン高値が心血管イベントの予知因子となる	熊谷英太	心臓・血管内科	1,950,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
53	アルドステロン高値は将来の心血管イベントの予知因子となる	熊谷英太	心臓・血管内科	500,000	補委	平成27年度石橋学術振興基金
54	右心不全の発症進展における右室線維化/Rhoキナーゼ経路の関与の解明	福本義弘	心臓・血管内科	1,300,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
55	拡張型心筋症を呈する心筋特異的SOCS3欠損マウスを用いた心不全の発症機構の解明	安川秀雄	心臓・血管内科	1,820,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
56	急性心筋梗塞の病態における制御性T細胞の役割	高橋基彌	心臓・血管内科	1,950,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
57	血管平滑筋STAT3が大動脈解離を抑制する分子メカニズムの解明	平方佐季	心臓・血管内科	1,950,000	補委	日本学術振興会 科学研究費

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額		補助又は委託元
58	心筋虚血再灌流障害のSOCS3欠損によるプレコンディショニングの有効性とその役割	永田隆信	心臓・血管内科	1,950,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
59	心筋梗塞後の心筋リモデリングにおける炎症性サイトカインIL17の役割	佐々木知子	心臓・血管内科	1,950,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
60	心筋梗塞後左室リモデリングにおけるマクロファージSOCS3の役割	野原正一郎	心臓・血管内科	1,950,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
61	心筋症・心不全患者のマルチバイオマーカーによる多面的アプローチと予後規定因子に関する研究	永田隆信	心臓・血管内科	1,000,000	補委	公益財団法人 木村記念循環器財団
62	大動脈解離におけるマクロファージ分化制御機構の解明と治療応用への挑戦	大野聡子	心臓・血管内科	2,340,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
63	大動脈瘤における免疫グロブリンの役割と免疫制御分子Sykに着目した治療法開発	古荘 文	心臓・血管内科	2,080,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
64	地域住民における食事由来の多価不飽和脂肪酸と腎障害発症・進展に関する疫学的研究	深水亜子	心臓・血管内科	1,170,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
65	脳梗塞急性期における血圧変動の意義:福岡県多施設患者登録システムの検討	福田賢治	心臓・血管内科	1,690,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
66	肥満における老化骨格筋の生成と制御の分子基盤の解明	田原敦子	心臓・血管内科	1,000,000	補委	公益財団法人 木村記念循環器財団
67	慢性腎不全の血管石灰化と内皮機能異常の共通制御の機構解明と治療標的分子の同定	梶本英美	心臓・血管内科	1,040,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
68	薬剤溶出性ステント留置後の内皮機能障害を抽出するためのバイオマーカーの探索	知花英俊	心臓・血管内科	1,950,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
69	CKDモデルラットの腎障害進展におけるGLP-1/DPP4の役割	安藤 亮太郎	腎臓内科	900,000	補委	日本学術振興会
70	母体環境が新生仔の腎障害に与える影響についての検討~AGEs-アプタマーの効果~	深水 圭	腎臓内科	800,000	補委	日本学術振興会
71	慢性透析患者におけるLOH症候群と動脈硬化に対するカルニチン抑制効果の検討	酒井 和子	腎臓内科	700,000	補委	日本学術振興会
72	ロコモ対策のための膝痛改善・機器開発	志波 直人	整形外科	1,606,691	補委	経済産業省
73	三池炭塵爆発によるCO中毒患者の身体機能解析と見守りが必要な高齢者へ応用可能な動作解析装置開発の研究	志波 直人	整形外科	7,868,441	補委	厚生労働省
74	三池炭塵爆発によるCO中毒患者の身体機能解析と見守りが必要な高齢者へ応用可能な動作解析装置開発の研究	橋田竜騎	整形外科	99,808	補委	厚生労働省
75	三池炭塵爆発によるCO中毒患者の身体機能解析と見守りが必要な高齢者へ応用可能な動作解析装置開発の研究	田川善彦	整形外科	1,320,440	補委	厚生労働省
76	統合失調症の発現過程にオキシトシンはどのように関与するのか	村井恵良	生理学(脳・神経)	1,010,000	補委	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究C(一般)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額		補助又は委託元
77	Thrombospondin-2は、一般住民において心機能低下の予知因子であるか？	足達 寿	地域医療連携講座	1,950,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
78	住民の健康を支えて50年、福岡県田主丸町住民検診の実践	足達 寿	地域医療連携講座	300,000	補委	一般財団法人 臨床医学振興財団
79	“主幹動脈収縮説”を基盤としたもやもや病早期診断／重症化予測法の確立	森岡 基浩	脳神経外科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費 基盤研究(C)
80	悪性グリオーマに対するミュートノーム・データベース構築	寺崎 瑞彦	脳神経外科	300,000	補委	文部科学省科学研究費 基盤研究(C)
81	脳梗塞integrated surgical cell therapyの確立	折戸 公彦	脳神経外科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費 基盤研究(C)
82	標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第Ⅲ相臨床研究	寺崎 瑞彦	脳神経外科	1,000,000	補委	「平成27年度 日本医療研究開発機構研究費(革新的がん医療実用化研究事業)」
83	FIB/SEMを用いた前立腺上皮細胞の超微細的な解析	上村 慶一郎	泌尿器科	900,000	補委	学術研究助成基金助成金 若手研究B
84	排尿筋層に存在する間質細胞の超微形態三次元再構築法による機能解析	林 篤正	泌尿器科	1,300,000	補委	学術研究助成基金助成金 基盤研究C
85	標準治療抵抗性尿路上皮がん患者に対するペプチドワクチン療法のマーカー検索	末金 茂高	泌尿器科	1,500,000	補委	学術研究助成基金助成金 基盤研究C
86	3種の病態実験モデルを用いた水疱性類天疱瘡における抗BP230抗体の病原性の検討	石井 文人	皮膚科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
87	ATLの分子病態に基づく治療層別化のためのマーカー開発と分子標的の同定、および革新的マウス急性型ATL実験モデルを用いた臨床応用への展開	大島 孝一	病理学2	5,000,000	補委	日本医療研究開発機構研究費(革新的がん医療実用化研究事業)
88	ATLの分子病態に基づく治療層別化のためのマーカー開発と分子標的の同定、および革新的マウス急性型ATL実験モデルを用いた臨床応用への展開	瀬戸 加大	病理学2	17,900,000	補委	日本医療研究開発機構再委託研究開発費(革新的がん医療実用化研究事業)
89	EBV関連リンパ腫発生に関与する宿主遺伝子の	瀬戸 加大	病理学2	1,040,000	補委	文科省科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
90	HTLV-1、EBV関連リンパ腫におけるウイルス抗原特異的CTLの病態解析	大島 孝一	病理学2	1,040,000	補委	文科省科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
91	RNA 絶対定量による微小環境解析に基づくびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫の層別化 および新規治療法の開発	大島 孝一	病理学2	1,000,000	補委	日本医療研究開発機構再委託研究開発費(革新的がん医療実用化研究事業)
92	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫におけるJAK-STAT経路活性化の意義	大島 孝一	病理学2	104,000	補委	文科省科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
93	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の新規難治性病型に対する治療研究	大島 孝一	病理学2	2,600,000	補委	日本医療研究開発機構再委託研究開発費(革新的がん医療実用化研究事業)
94	成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究	大島 孝一	病理学2	500,000	補委	国立がん研究センター研究開発費
95	標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第三相臨床研究	杉田 保雄	病理学2	1,000,000	補委	日本医療研究開発機構再委託研究開発費(革新的がん医療実用化研究事業)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額		補助又は委託元
96	慢性活動性EBウイルス感染症とその類縁疾患の診療ガイドライン作成と患者レジストリの構築	大島 孝一	病理学2	750,000	補委	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業)
97	肝疾患患者を対象とした相談支援システム構築、運用、評価に関する研究	矢野 博久	病理学講座	1,000,000	補委	厚生労働省
98	NASHの3T-MRI:Imaging Biomarkerの確立	東南辰幸	放射線科	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費基盤研究(C)
99	国際標準化のための横隔腫瘍の画像診断を用いた横隔区分法と病気分類の提案と評価	藤本公則	放射線科	1,820,000	補委	文部科学省科学研究費基盤研究(C)
100	グレリンによる報酬関連行動の調節とその脳内神経伝達機構の解明	河原 幸江	薬理学講座	1,170,000	補委	文部科学省 科学研究費基盤研究(C)
101	グレリンによる報酬関連行動の調節とその脳内神経伝達機構の解明	河原 幸江	薬理学講座	500,000	補委	石橋学術振興基金
102	ホスホエステラーゼに着目した精神疾患の病態解明および治療法開発	黒岩 真帆美	薬理学講座	1,820,000	補委	文部科学省 科学研究費若手研究(B)
103	ホスホエステラーゼに着目した精神疾患の病態解明および治療法開発	黒岩 真帆美	薬理学講座	500,000	補委	石橋学術振興基金
104	何故うつ状態になると依存症になりやすいのか? その分子メカニズムの解明	大西 克典	薬理学講座	1,820,000	補委	文部科学省 科学研究費基盤研究(C)
105	細胞外マトリックス糖鎖分子による神経細胞の形態形成制御機構	外角 直樹	薬理学講座	1,690,000	補委	文部科学省 科学研究費基盤研究(C)
106	マクロファージを制し根治を目指す! 新型電子顕微鏡での肥厚性瘢痕、ケロイドの研究	古賀 憲幸	形成外科・顎顔面外科	3,120,000	補委	日本学術振興会 科学研究費:基盤研究(C)
107	ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウム治療法の開発研究—試薬からの希少疾病治療薬開発の試み—	古賀 靖敏	小児科	179,624,000	補委	日本医療研究開発機構委託研究開発費(難治性疾患実用化研究事業)
108	ミトコンドリア病治療薬のための網羅的機能測定スクリーニングシステムの開発	古賀 靖敏	小児科	1,560,000	補委	文部科学省:科学研究費基金(基盤研究(C))
109	一見“正常範囲”の経過から発生する周生期由来の脳機能異常を解明する	津田兼之介	小児科	3,000,000	補委	文部科学省:科学研究費基金(若手研究(B))
110	我が国に適応した神経学的予後の改善を目指した新生児蘇生法ガイドライン作成のための研究	岩田 政介	小児科	800,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
111	完全大血管転位術後遠隔期の冠状動脈内皮機能異常に関する検討	岸本 慎太郎	小児科	1,560,000	補委	文部科学省:科学研究費基金(若手研究(B))
112	血漿FGF21はミトコンドリア病の臨床症状を反映できるか?	ハツ賀 秀一	小児科	910,000	補委	文部科学省:科学研究費基金(若手研究(B))
113	光散乱情報による早産児の脳損傷ベッドサイド評価による受傷機転解明と予防法確立	岩田 幸子	小児科	4,800,000	補委	文部科学省:科学研究費基金(基盤研究(C))
114	小児肝疾患におけるオキシステロールの病態解析とバイオマーカーとしての可能性	水落建輝	小児科	1,690,000	補委	文部科学省:科学研究費基金(基盤研究(C))

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額		補助又は委託元
115	先進的画像診断による川崎病冠状動脈炎の評価法の確立	須田 憲治	小児科	1,300,000	補委	文部科学省:科学研究費基金(基盤研究(C))
116	胎児不整脈に対する胎児治療の臨床研究	前野泰樹	小児科	1,000,000	補委	厚生労働科学研究費補助金医療技術実用化総合研究事業
117	小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究	八木 実	小児外科	200,000	補委	厚生労働科学研究費補助金:難治性疾患等政策研究事業(田口智章 研究班)
118	小児期発症の希少難治性肝胆臓疾患における包括的な診断・治療ガイドライン作成に関する研究	八木 実	小児外科	200,000	補委	厚生労働科学研究費補助金:難治性疾患等政策研究事業(仁尾正記 研究班)
119	非侵襲的手法を用いた重症心身障児における小腸内細菌増殖の病態解明	深堀 優	小児外科	1,200,000	補委	文部科学省:科学研究費補助金:基盤研究(C)
120	ヘイリーヘイリー病疾患モデルを用いた病態形成におけるストレス応答の関連性の検討	松田 光弘	皮膚科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費(若手研究B)
121	円形脱毛症に対する局所免疫療法におけるT細胞と皮膚樹状細胞の役割	夏秋 洋平	皮膚科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費(若手研究B)
122	円形脱毛症に対する局所免疫療法におけるT細胞と皮膚樹状細胞の役割	夏秋 洋平	皮膚科	500,000	補委	石橋学術振興基金助成金
123	抗ラミン332抗体が生ずる皮膚基底膜脆弱性の機序解明	古賀 浩嗣	皮膚科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費(若手研究B)
124	乳房外ページェット病のアンドロゲン標的療法:世界初の樹立細胞株による基礎的研究	辛島 正志	皮膚科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
125	皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究	大畑 千佳	皮膚科	1,200,000	補委	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等克服研究事業):橋本隆班
126	本邦ジューリング疱疹状皮膚炎の血清学的・遺伝学的研究	大畑 千佳	皮膚科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
127	慢性ウイルス性肝炎の病態把握(重症度・治療介入時期・治療効果判定・予後予測)のための非侵襲的病態診断アルゴリズムの確立	鹿毛 政義	病理診断科・病理部	1,000,000	補委	日本医療研究開発機構(受託者:近畿大学)
128	液状検体の遊離DNAを用いた新しい遺伝子変異検出法の確立	河原 明彦	病理診断科・病理部	1,330,000	補委	科学研究費助成事業(学術研究助成金助成金)
129	門脈血行異常症に関する調査研究	鹿毛 政義	病理診断科・病理部	9,996,000	補委	日本医療研究開発機構(受託者:久留米大学)
130	直腸癌側方骨盤リンパ節転移の術前診断の妥当性に関する観察研究	赤木由人	外科学	440,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
131	トリプルネガティブ乳がんに対するがんペプチドワクチン療法の開発研究	唐 宇飛	外科学	900,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤研究(C))
132	ペプチドワクチンによるトリプルネガティブ乳がんの臨床効果に関する検討	唐 宇飛	外科学	500,000	補委	石橋財団研究奨励金
133	宇宙空間における筋骨格系廃用萎縮予防法の開発	志波 直人	整形外科	900,000	補委	文部科学省研究費補助金(基盤研究(C))

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額		補助又は委託元
134	脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	佐藤 公昭	整形外科	300,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)
135	骨粗鬆症性椎体骨折に対する 保存的初期治療の指針策定	佐藤 公昭	整形外科	500,000	補 委	厚生労働科学研究委託費 長寿科学研究開発事業
136	バイオバンドを用いた骨折・腱筋付着部 治療への応用	後藤昌史	整形外科	2,000,000	補 委	公益財団法人テルモ科学技術 振興財団 一般研究開発助成金I
137	高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のた めの研究	平岡弘二	整形外科	800,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研 究開発機構(AMED) 革新的がん医療実用化研究事 業

小計4
合計137

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合には「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	※別紙2のとおり			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計131

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	※別紙3のとおり			
2				
3				
4				
5				
～				

計114

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
1	Am J Hum Genet.	2015年4月2日	Submicroscopic deletions at 13q32.1 cause congenital microcoria.	山本 健	医化学
2	Blood	2015年4月30日	β 2-glycoprotein I/ HLA class II complexes are novel autoantigens in antiphospholipid syndrome.	山本 健	医化学
3	J Neurol Sci.	2015年9月15日	A novel missense mutation of RYR1 in familial idiopathic hyper CK-emia.	山本 健	医化学
4	Ann Neurol.	2015年11月1日	Copy Number Variations in Multiple Sclerosis and Neuromyelitis Optica.	山本 健	医化学
5	Nat Genet.	2015年11月1日	Trans-ethnic genome-wide association study identifies 12 genetic loci influencing blood pressure and implicates a role for DNA methylation.	山本 健	医化学
6	Diabetologia	2015年12月1日	Epigenome-wide association study suggests that SNPs in the promoter region of RETN influence plasma resistin level via effects on DNA methylation at neighbouring sites.	山本 健	医化学
7	Tissue Antigens	2015年12月1日	Effects of HLA-DPB1 genotypes on chronic hepatitis B infection in Japanese individuals.	山本 健	医化学
8	Blood	2015年12月17日	Genome wide surveillance of mismatched alleles for graft versus host disease in stem cell transplantation.	山本 健	医化学
9	Sci Rep.	2016年1月20日	Genome-wide association studies in East Asians identify new loci for waist-hip ratio and waist circumference.	山本 健	医化学
10	BMC Gastroenterol.	2016年1月28日	Novel exonic mutation inducing aberrant splicing in the IL10RA gene and resulting in infantile-onset inflammatory bowel disease: a case report.	山本 健	医化学
11	PLoS Genet.	2016年2月18日	Integrated Multiregional Analysis Proposing a New Model of Colorectal Cancer Evolution.	山本 健	医化学
12	Clinical Ophthalmology	2015年	Evaluation of lid speculum with a drape(LiDrape®) for preventing surgical-field contamination	Toru Urano	Ophthalmology
13	J Craniofac Surg	2016年1月	The efficacy of continuous negative pressure and irrigation treatment inside the wound by a closed system in reconstruction of all layers of the cranium accompanying infection and cerebrospinal fluid leakage	Oyama M	形成外科・顎顔面外科
14	Cancer Sci	2015年	Personalized peptide vaccination for cervical patients who have received prior platinum-based chemotherapy	Kawano K	産婦人科
15	Ann Otol Rhinol Larygol	2015年1月	Mechanical regulation of human vocal fold stellate cells	Kiminori Sato	耳鼻咽喉科・頭頸部外科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
16	PLoS ONE	2015年1月	Induction of CD44 variant 9-expressing cancer stem cells might attenuate the efficacy of chemoradioselection and worsens the prognosis of patients with advanced head and neck cancer	Takeichiro Aso	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
17	Laryngoscope	2015年3月	Dimensions and morphological characteristics of human newborn glottis	Kiminori Sato	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
18	Asian Rhinology Journal	2015年4月	Current pathophysiology and management of odontogenic maxillary sinusitis	Kiminori Sato	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
19	Larynx Jpn	2015年6月	Challenges of overcoming of swallowing difficulty following total glossectomy, laryngectomy and resection of the mandible	Sachiyo Hamakawa	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
20	Ann Otol Rhinol Laryngol	2015年7月	Origin of vocal fold stellate cells in the human macula flava	Takashi Kurita	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
21	Front Psychiatry	2015年6月	Upregulated GABA Inhibitory Function in ADHD children with child behavior checklist-dysregulation profile: 123I-Iomazenil SPECT Study.	Nagamitsu S	小児科
22	Sci Rep	2015年6月	Disturbance of cardiac gene expression and cardiomyocyte structure predisposes Mecp2-null mice to arrhythmias.	Hara M,	小児科
23	Am J Med Genet A	2015年7月	De novo SHANK3 mutation causes Rett syndrome-like phenotype in a female patient.	Hara M,	小児科
24	Epilepsia	2015年9月	De novo KCNT1 mutations in early-onset epileptic encephalopathy.	Hara M,	小児科
25	Sensors (Basel)	2015年10月	Soft neurological signs in childhood by measurement of arm movements using acceleration and angular velocity.	Yamashita Y	小児科
26	Brain Dev	2015年10月1日	Developmental trajectories for attention and working memory in healthy Japanese school-aged children.	Yamashita Y	小児科
27	Int J Sch Cog Psychol	2015年10月1日	Adrenoleukodystrophy with Frontal Lobe Involvement and Attention Deficit Hyperactivity Disorder-like Symptoms.	Yamashita Y	小児科
28	Genes to Cells	2015年12月1日	Disruption of MeCP2 attenuates circadian rhythm in CRISPR/Cas9-based Rett syndrome model mouse.	Matsuishi T	小児科
29	PLOS ONE	2015年12月1日	Development and Evaluation of a Parenting Resilience Elements Questionnaire (PREQ) Measuring Resiliency in Rearing Children with Developmental Disorders.	Yamashita Y	小児科
30	Brain Dev	2016年1月	ADHD-like behavior in a patient with hypothalamic hamartoma.	Yamashita Y	小児科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
31	Brain Dev	2016年2月	Prediction of acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion in patients with febrile status epilepticus.	Yokochi T	小児科
32	Ann Neurol	2015年11月	Growth differentiation factor 15 as a useful biomarker for mitochondrial disorders	Yatsuga S, Koga Y	小児科
33	Circulation Journal	2015年	Fetal Bradycardia With Congenital Heart Defects.	Miyoshi T, Maeno Y	小児科
34	Brain Dev	2015年	Developmental assessment of VLBW infants at 18 months of age: A comparison study between KSPD and Bayley III.	Kono Y, Yonemoto N, Kusuda S, Hirano S, Iwata O, Tanaka K, Nakazawa J	小児科
35	Pediatric Surgery Interna	2015年10月	Twenty-year trends in neonatal surgery based on a nationwide Japanese surveillance program.	Minoru Yagi	小児外科
36	Acute Medicine & Surgery	2015年6月	Contrast-enhanced multidetector-row computed tomography can predict pathological findings of acute appendicitis in children	Naoki Hashizume	小児外科
37	Sci Adv	2015年4月	PlGF-induced VEGFR1-dependent vascular remodeling determines opposing antitumor effects and drug resistance to DLL4-Notch inhibitors	Iwamoto H	消化器内科
38	Int J Oncol	2015年5月	Effects of fucoidan on proliferation, AMP-activated protein kinase, and downstream metabolism- and cell cycle-associated molecules in poorly differentiated human hepatoma HLF cells	Kawaguchi T	消化器内科
39	Oncol Lett	2015年10月	High expression of the putative cancer stem cell marker, Dclk1, a putative cancer stem cell marker	Ikezono Y	消化器内科
40	Cancer Med	2015年12月	Sorafenib for the treatment of advanced hepatocellular carcinoma with extrahepatic metastasis: a prospective multicenter cohort study	Nakano M	消化器内科
41	Mol Ther Oncolytics	2015年12月	Inhibition of hypoxia-inducible factor via upregulation of von Hippel-Lindau protein induces "angiogenic switch off" in a hepatoma mouse model	Iwamoto H	消化器内科
42	J Clin Case Rep	2015年12月	Successful down-staging of hepatocellular carcinoma with intra-arterial therapy prior to liver transplantation: A case report	Iwamoto H	消化器内科
43	Int J Oncol	2016年1月	Advanced endoscopic features of ulcerative colitis-associated neoplasias: Quantification of autofluorescence imaging	Yoshioka S	消化器内科
44	World J Gastroenterol	2016年1月	Antibody markers in the diagnosis of inflammatory bowel disease	Mitsuyama K	消化器内科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
45	Cancer Chemother Pharmacol	2016年2月	Hepatic arterial infusion chemoembolization therapy for advanced hepatocellular carcinoma: multicenter phase II study	Nagamatsu H	消化器内科
46	Cytotherapy	2016年2月	A longitudinal study of FDG-PET in Crohn disease patients receiving granulocyte/monocyte apheresis therapy	Kuwaki K	消化器内科
47	Med Mol Morphol	2016年3月	A resected case of neuroendocrine carcinoma of the stomach with unusual lymph node metastasis	Taguchi J	消化器内科
48	Am J Hypertens	2015年7月	Plasma renin activity and resting heart rate in a population of community-dwelling Japanese: The Tanushimaru Study.	Adachi H	地域医療連携講座
49	Atherosclerosis	2015年4月	Association of serum eicosapentaenoic acid to arachidonic acid ratio with microalbuminuria in a population of community-dwelling Japanese.	Fukami A	心臓・血管内科
50	Cardiovasc Interv and Th	2016年1月	Comparison of everolimus- versus sirolimus-eluting stents in the provisional bifurcation stenting guided by intravascular ultrasound: mid-term results of the J-REVERSE registry.	Murasato Y	心臓・血管内科
51	Cardiovasc Interv Ther	2016年1月	Serial changes of coronary endothelial function and arterial healing after paclitaxel-eluting stent implantation.	Mitsutake Y	心臓・血管内科
52	Circulation	2015年6月	Prevalence, clinical features, and prognosis of acute myocardial infarction attributable to coronary artery embolism.	Shibata T	心臓・血管内科
53	Circ J	2015年7月	Renal nerve-mediated erythropoietin release confers cardioprotection during remote ischemic preconditioning.	Oba T	心臓・血管内科
54	Clin Med Insights Cardiol	2015年4月	Circulating inflammatory and hemostatic biomarkers are associated with all-cause death and cancer death in a population of community-dwelling Japanese: the Tanushimaru Study.	Enomoto E	心臓・血管内科
55	Euro Intervention	2015年5月	Final kissing balloon inflation: the whole story.	Murasato Y	心臓・血管内科
56	Heart and Vessels	2016年3月	Beneficial effects of losartan for prevention of paroxysmal atrial fibrillation in patients with sick sinus syndrome -Analysis with memory function of pacemaker-	Takii E	心臓・血管内科
57	Int J Cardiol	2015年4月	Serum levels of pigment epithelium-derived factor (PEDF) are inversely associated with circulating levels of dipeptidyl peptidase-4 (DPP-4) in humans.	Tahara N	循環器病センター
58	J Cardiol	2016年1月	Plasma heat shock protein 27 is increased in renal dysfunction and habitual smoking in a Japanese general population.	Nakayoshi T	心臓・血管内科
59	J Diabetes Invest	2015年5月	Ezetimibe combined with standard diet and exercise therapy improves insulin resistance and atherosclerotic markers in patients with metabolic syndrome	Ohbu-Murayama K	心臓・血管内科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
60	PLOS ONE	2015年5月	Cardiac-specific SOCS3 deletion prevents in vivo myocardial ischemia reperfusion injury through sustained activation of cardioprotective signaling molecules.	Nagata T	心臓・血管内科
61	Stroke	2015年7月	Day-by-day blood pressure variability and functional outcome after acute ischemic stroke -Fukuoka stroke registry-	Fukuda K	心臓・血管内科
62	Euro Intervention	2016年2月	Efficacy of kissing balloon inflation after provisional stenting in bifurcation lesions guided by intravascular ultrasound: short and midterm results of the J-REVERSE registry.	Murasato Y	心臓・血管内科
63	PLoS One	2015年4月	FOXO4-knockdown suppresses oxidative stress-induced apoptosis of early pro-angiogenic cells and augments their neovascularization capacities in ischemic limbs.	Nakayoshi T	心臓・血管内科
64	Circ J	2015年9月	Trans fatty acid and coronary artery disease.	Adachi H	地域医療連携講座
65	J Atheroscler Thromb	2015年11月	Impact of acquired von Willebrand syndrome in severe aortic stenosis.	Fukumoto Y	心臓・血管内科
66	J CARDIOVASC PHARM	2015年5月	Oral L-carnitine supplementation increases trimethylamine-N-oxide, but reduces markers of vascular injury in hemodialysis patients.	Fukami K	腎臓内科
67	ANN CLIN BIOCHEM	2015	Serum albumin-adjusted glycated albumin is a better indicator of glycaemic control in diabetic patients with end-stage renal disease not on haemodialysis.	Fukami K	腎臓内科
68	J DIABETES COMPLICAT	2015	Serum albumin-adjusted glycated albumin reflects glycemic excursion in diabetic patients with severe chronic kidney disease not treated with dialysis.	Fukami K	腎臓内科
69	Biochem. Anal. Biochem.	2016. 2. 23	Potential Benefit of Uric Acid for Thrombolytic Therapy in Acute Ischemic Stroke.	Kikuchi K., Morita M., Murai Y., Tanaka E.	生理学講座(脳・神経)
70	Biochem. Anal. Biochem.	2016. 2. 01	Future Optimal Dosing Regimens for Thrombolysis in Acute Stroke.	Kikuchi K., Morita M., Murai Y., Tanaka E.	生理学講座(脳・神経)
71	Asian Pac J Cancer Prev	2015年5月	Associations between vitamin D receptor (VDR) gene polymorphisms and colorectal cancer risk and effect modifications of dietary calcium and vitamin D in a Japanese population	Takeshige N	脳神経外科
72	Pituitary	2015年10月	Primary meningeal melanocytoma of the sellar region: review of the literature and differential diagnosis with special reference to angiographical features	Sakata K	脳神経外科
73	Surg Neurol Int	2015年3月	Sequential pathological changes during malignant transformation of a craniopharyngioma: A case report and review of the literature	Negoto T	脳神経外科
74	Surg Neurol Int	2015年5月	Nontraumatic aneurysm rupture following an endoscopic third ventriculostomy and ventricular drainage: Case report of a rare complication	Miyagi N	脳神経外科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
75	J Neurooncol	2016年3月	Endothelin B receptor expression in malignant gliomas: the perivascular immune escape mechanism of gliomas	Nakashima S	脳神経外科
76	Surg Neurol Int	2015年10月	Endoscopic biopsy for the diagnosis of neurosarcoidosis at the fourth ventricle outlet with hydrocephalus	Yoshitomi S	脳神経外科
77	J Stroke Cerebrovasc Dis	2016年3月	Alternatively Activated Macrophages Play an Important Role in Vascular Remodeling and Hemorrhaging in Patients with Brain Arteriovenous Malformation	Nakamura Y	脳神経外科
78	Cancer Immunol Immunother 64:493-505	2015年	Phase I trial of cancer vaccine consisting of 20 mixed peptides in patients with Castration-resistant prostate cancer : dose-related immune boosting and suppression	野口 正典	泌尿器科
79	Anticancer Research 35:3415-3422	2015年6月	Duration of First-line Treatment with Molecular Targeted-Therapy Is a Prognostic Factor in Metastatic Renal Cell Carcinoma	植田 浩介	泌尿器科
80	Acta Biomater pii : S1742-7061	2015年10月20日	Growth inhibitory effect of an injectable hyaluronic acid-tyramine hydrogels incorporating human natural interferon- α and sorafenib on renal cell carcinoma cells.	植田 浩介	泌尿器科
81	Cancre Sci 106:1257-63	2015年	Immunological evaluation of vaccination for cancer peptide vaccination for cancer patients with the HLA-A26 allele.	末金 茂高	泌尿器科
82	Acta Histochemica 117 6:512-520	2015年	Subcutaneous transplantation promotes organ formation of the fetal rat urogenital sinus	上村 慶一郎	泌尿器科
83	BMC Res Notes 8:257	2015年	Composite pheochromocytoma of the adrenal gland: a case series	井川 掌	泌尿器科
84	ONCLOGY LETTERS 10:8	2015年	Assessment of cell proliferation in renal cell carcinoma using dual-phase 18F-fluorodeoxyglucose PET/CT	大西 伶	泌尿器科
85	Clinical Cancer Research	2015年11月18日	An Open-Label, Randomized Phase II Trial of Personalized Peptide Vaccination in Patients with Bladder Cancer that Progressed after Platinum-Based Chemotherapy.	野口 正典	泌尿器科
86	Immunotherapy	2015年12月7日	Immunotherapy in prostate cancer : challenges and opportunities.	野口 正典	泌尿器科
87	Cancer Immunology Immun	2016年1月	A randomized phase II clinical trial of personalized peptide vaccination with metronomic low-dose cyclophosphamide in patients with metastatic castration-resistant prostate cancer.	野口 正典	泌尿器科
88	J Dermatol	2015年6月	Loss of heterozygosity in a case of glomovenous malformations.	Ohata C	皮膚科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
89	J Am Acad Dermatol	2015年7月	Coexistence of autoimmune bullous diseases (AIBDs) and psoriasis: A series of 145 cases.	Ohata C	皮膚科
90	Dermatol Surg	2015年7月	Cutaneous Metastasis of Cecal Carcinoma With Epidermotropism.	Ohata C	皮膚科
91	Br J Dermatol	2015年7月	Anti-desmocollin autoantibodies in nonclassical pemphigus.	Ishii N	皮膚科
92	J Cutan Pathol	2015年8月	Adnexal involvement in bullous pemphigoid.	Ohata C	皮膚科
93	J Dermatol	2015年9月	Vesicles and pustules on the fingers as an initial manifestation of eosinophilic pustular folliculitis.	Ohata C	皮膚科
94	Exp Dermatol	2015年10月	A three-dimensional in vitro culture model of Hailey-Hailey disease.	Matsuda M	皮膚科
95	Br J Dermatol	2015年12月	Clinical and immunological findings in 104 cases of paraneoplastic pemphigus.	Ohzono A	皮膚科
96	Br J Dermatol	2016年1月	Unique characteristics in Japanese dermatitis herpetiformis.	Ohata C	皮膚科
97	Am J Dermatopathol	2016年2月	Comparative Study of Direct Immunofluorescence in Discoid Lupus Erythematosus and Bullous Pemphigoid.	Ohata C	皮膚科
98	Cutis	2016年3月	Brown macule on the waist.	Ohata C	皮膚科
99	Med Mol Morphol	2016年3月	Inducible lymphoid clusters, iSALTs, in contact dermatitis: a new concept of acquired cutaneous immune responses.	Natsuaki Y	皮膚科
100	J Thorac Oncol.	2015年5月	Heterogeneity of anaplastic lymphoma kinase gene rearrangement in non-small-cell lung carcinomas: a comparative study between small biopsy and excision samples.	Abe H, Kawahara A, Azuma K, Taira T, Takase Y, Fukumitsu C, Murata K, Yamaguchi T, Akiba J, Ishii H, Okamoto I, Hoshino T, Takamori S, Kage M.	病理診断科・病理部
101	Cancer Cytopathol.	2015年10月	Epidermal growth factor receptor mutation status in cell-free DNA supernatant of bronchial washings and brushings.	Kawahara A, Fukumitsu C, Taira T, Abe H, Takase Y, Murata K, Yamaguchi T, Azuma K, Ishii H, Takamori S, Akiba J, Hoshino T, Kage M.	病理診断科・病理部
102	Cancer Cytopathol.	2015年10月	Diagnostic utility of phosphorylated signal transducer and activator of transcription 5 immunostaining in the diagnosis of mammary analogue secretory carcinoma of the salivary gland: A comparative study of salivary gland cancers.	Kawahara A, Taira T, Abe H, Takase Y, Kurita T, Sadashima E, Hattori S, Imamura J, Matsumoto S, Fujisaki H, Sueyoshi K, Akiba J, Kage M.	病理診断科・病理部

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
103	Oncol Rep.	2015年4月	Anaplastic lymphoma kinase protein expression, genetic abnormalities, and phosphorylation in soft tissue tumors: Phosphorylation is associated with recurrent metastasis.	Ishibashi Y	病理学2
104	Pathol Int.	2015年9月	Low incidence of MYC/BCL2 double-hit in Burkitt lymphoma.	Yoshida M	病理学2
105	Pathol Int.	2015年10月	Clinicopathological features of double-hit B-cell lymphomas with MYC and BCL2, BCL6 or GCND1 rearrangements.	Yoshida M	病理学2
106	Blood.	2015年11月	Expression of programmed cell death ligand 1 is associated with poor overall survival in patients with diffuse large B-cell lymphoma.	Kiyasu J	病理学2
107	PLoS One	2015年	Des- γ -Carboxyprothrombin (DCP) and NX-DCP Expressions and Their Relationship with Clinicopathological Features in Hepatocellular Carcinoma.	Sumi A	放射線科
108	Ann Nucl Med	2015年	Assessment of (99m)Tc-MIBI SPECT(/CT) to monitor multidrug resistance-related proteins and apoptosis-related proteins in patients with ovarian cancer: a preliminary study.	Kurata S	放射線科
109	Magn Reson Med Sci	2015年	Assessment of MR Imaging as a Tool to Differentiate between the Major Histological Types of Uterine Sarcomas.	Sumi A	放射線科
110	Open Journal of Radiolog	2015年	High-Quality Three-Dimensional Computed Tomography Angiography of Abdominal Viscera with Small Focal Spot, Low Tube Voltage, and Iterative Model Reconstruction Technique.	Uchida M	放射線科
111	BMJ Case Rep	2016年	Carpal tunnel syndrome caused by neural fibrolipoma.	Koganemaru M	放射線科
112	Magn Reson Imaging Clin	2015年	MR Imaging of Soft-Tissue Tumors of the Upper Extremity.	Nagata S	放射線科
113	Intern Med	2015年	Asymptomatic saccular aneurysm of the superior vena cava.	Kuhara A	放射線科
114	Surg Case Rep	2015年	Hydrocele of the canal of Nuck: a case report with magnetic resonance hydrography findings.	Kono R	放射線科
115	Am J Emerg Med	2016年	Successful transcatheter lumbar arterial embolization of traumatic hemothorax.	Nabeta M	放射線科
116	Journal of Diabetes Investigation	2015年11月	Effects of a sodium glucose co-transporter2 selective inhibitor/ipragliflojin/on the diurnal profile of plasma glucose in patients with type2 diabetes: A study using continuous glucose monitoring.	Kentaro Yamada	内分泌代謝内科

小計14

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
117	Internal Medicine	2015年8月	Cross-sectional and longitudinal analyses of factor contributing to the progressive loss of the B-cell function in type2 diabetes	Hitomi Nakayama	内分泌代謝内科
118	International Journal of Endocrinology	2015年6月	Liver dysfunction associated with intravenous mehty/prednisolone pulse theopy in patients with Gnaves orbitopathy	Hiroyuki Eguchi	内分泌代謝内科
119	PLOS ONE	2015年12月2日	Chronic Powder Diet After Weaning Induces Sleep, Behavioral, Neuroanatomical, and Neurophysiological Changes in Mice	Emiko Anegawa	歯科口腔医療センター
120	SCIENTIFIC REPORTS	2015年12月2日	Anchoring structure of the calvarial periosteum revealed by focused ion beam/scanning electron microscope tomography	Shingo Hirashima	解剖学講座 顕微解剖・生体形成部門/歯科口腔医療センター
121	Clinical Anatomy	2015年9月9日	The Clinical Anatomy of Accessory Mental Nerves and Foramina	Joe Iwanaga	解剖学講座 肉眼・臨床解剖部門/歯科口腔医療センター
122	PLoS One	2015年3月	Randomized phase II study of 5-fluorouracil hepatic arterial infusion with or without antineoplastons as an adjuvant therapy after hepatectomy for liver metastases from colorectal cancer.	緒方 裕	外科学講座
123	Int J Clin Oncol	2015年9月	A prospective study of XELOX plus bevacizumab as first-line therapy in Japanese patients with metastatic colorectal cancer (KSCC 0902)	緒方 裕	外科学講座
124	Cancer Immunology	2015年	Tumor Immunotherapy of Esophageal and Gastric Cancer.	唐 宇飛	外科学講座
125	Breast Cancer Res Treat	2015年9月	Navigation surgery for intraoperative sentinel lymph node detection using Indocyanine green (ICG) fluorescence real-time imaging in breast cancer.	唐 宇飛	外科学講座
126	Int J Clin Oncol	2015年1月	Phase II trial of an alternating regimen consisting of first-line mFOLFOX6 plus bevacizumab and FOLFIRI plus bevacizumab for patients with metastatic colorectal cancer: FIREFOX plus bevacizumab trial (KSCC0801)	三輪 啓介	外科学講座
127	Ann Surg Oncol	2015年11月	A High ROR γ T/CD3 Ratio is a Strong Prognostic Factor for Postoperative Survival in Advanced Colorectal Cancer: Analysis of Helper T Cell Lymphocytes (Th1, Th2, Th17 and Regulatory T Cells).	吉田 直祐	外科学講座
128	Anticancer Research	2015年8月	Analysis of Wnt and β -catenin Expression in Advanced Colorectal Cancer.	吉田 直祐	外科学講座
129	PLoS ONE 10(8)	2015年	Electrically Stimulated Antagonist Muscle Contraction Increased Muscle Mass and Bone Mineral Density of One Astronaut - Initial Verification on the International Space Station	志波 直人	整形外科
130	Gerontechnology 13(4): 420-425	2015年	Electrically stimulating antagonist muscles improves strength in older men.	志波 直人	整形外科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
131	Oncol Rep. 33(4):1667-74	2015年	Anaplastic lymphoma kinase protein expression, genetic abnormalities, and phosphorylation in soft tissue tumors: Phosphorylation is associated with recurrent metastasis.	石橋 千直	整形外科

小計1
合計131

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
1	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery	2015年	Long Term Results and Predictors of Left Ventricular Function Recovery after Aortic Valve Replacement for Chronic Aortic Regurgitation.	Saisho H	外科
2	日本心臓血管外科学会雑誌	2015年	術前に消化管出血を合併しハイド症候群を疑った重症大動脈弁狭窄症の1例	古野 哲慎	外科
3	日本心臓血管外科学会雑誌	2016年	免疫性血小板減少症を合併した超高齢者の急性A型大動脈解離に対し上行弓部大動脈置換術後、基部再解離に対し再手術を施行した1例	古野 哲慎	外科
4	Biomol NMR Assign.	2015年4月1日	Backbone assignments of the apo and Zn(II) protoporphyrin IX-bound states of the soluble form of rat heme oxygenase-1.	杉島 正一	医化学
5	J Am Chem Soc.	2015年4月29日	Insights into the proton transfer mechanism of a bilin reductase PcyA following neutron crystallography.	杉島 正一	医化学
6	Sci Rep.	2015年5月15日	Rhodobacter sphaeroides mutants overexpressing chlorophyllide a oxidoreductase of Blastochloris viridis elucidate functions of enzymes in late bacteriochlorophyll biosynthetic pathways.	原田 二郎	医化学
7	Biochemistry	2015年8月18日	In Vitro Enzymatic Activities of Bacteriochlorophyll a Synthase Derived from the Green Sulfur Photosynthetic Bacterium Chlorobaculum tepidum.	原田 二郎	医化学
8	Genome Announc.	2015年9月3日	Complete Genome Sequence of the Bacteriochlorophyll b-Producing Photosynthetic Bacterium Blastochloris viridis.	原田 二郎	医化学
9	Mol Microbiol.	2015年12月1日	Stereochemical conversion of C3-vinyl group to 1-hydroxyethyl group in bacteriochlorophyll c by the hydratases BchF and BchV: adaptation of green sulfur bacteria to limited-light environments.	原田 二郎	医化学
10	J Photochem Photobiol A Chem.	2015年12月1日	Modification of the esterifying famesyl chain in light-harvesting bacteriochlorophylls in green sulfur photosynthetic bacteria by supplementation of 9-decyn-1-ol, 9-decen-1-ol, and decan-1-ol.	原田 二郎	医化学
11	J Photochem Photobiol A Chem.	2015年12月1日	Inactivation of bciD and bchU genes in the green sulfur bacterium Chlorobaculum limnaeum and alteration of photosynthetic pigments in the resultant mutants.	原田 二郎	医化学
12	Sci Rep.	2015年12月9日	Mapping the genetic diversity of HLA haplotypes in the Japanese populations.	山本 健	医化学
13	第45回日本看護学会論文集 看護管理	2015年4月	勤務異動後の看護師の勤務継続に関する要因	迎 美智子	看護部(外来)
14	臨床眼科	2015年7月15日	サイトメガロウイルス角膜内皮炎・虹彩炎の5例	實吉 安信	眼科

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
15	あたらしい眼科	2015年12月10日	抗血栓療法の際線維柱帯切除術における周術期の影響	辻 拓也	眼科
16	眼科臨床紀要	2015年12月15日	照射後13年経過してから視力低下を自覚した放射線網膜症の1例	春田 雅俊	眼科
17	救急医学	2015年5月	脊髄損傷に伴うショックの診断・治療	山下 典夫	高度救命救急センター
18	日本救命医療学会雑誌	2015年9月	経皮的ドレナージが奏功した重症急性肺炎後の 感染性被包化壊死の1例	田代 恵太	高度救命救急センター
19	日本腹部救急医学会雑誌	2015年9月	腹部刺創症例の検討	下条 芳秀	高度救命救急センター
20	日本外傷学会雑誌	2015年10月	非開腹治療を行ったⅢb型脾損傷の1例	森 眞二郎	高度救命救急センター
21	救急・集中治療	2015年10月	イレウス/感染性胃腸炎/虚血性腸炎の輸液管理	下条 芳秀	高度救命救急センター
22	日本病院前救急診療医学会誌	2015年11月	重症外傷例に対するドクターヘリによる病院前診療の効果と限界について ～止血凝固能から見た検討～	高須 修	高度救命救急センター
23	外傷	2015年11月	外傷性十二指腸穿孔に対するacute care surgery	疋田 茂樹	高度救命救急センター
24	日本血液浄化学会誌	2015年12月	ポリメチルメタクリレート膜を使用した持続的腎代替療法下におけるテイコプラニンの薬物動態	中村 篤雄	高度救命救急センター
25	救急・集中治療	2015年12月	逆流性食道炎/胃十二指腸潰瘍/ストレス潰瘍	下条 芳秀	高度救命救急センター
26	J Stroke Cerebrovasc Dis	2016年3月	Alternatively Activated Macrophages Play an Important Role in Vascular Remodeling and Hemorrhaging in Patients with Brain Arteriovenous Malformation.	Nakamura Y	高度救命救急センター
27	Acta Histochem	2015年4月	Subcutaneous transplantation promotes organ formation of the fetal rat urogenital sinus	Uemura K	解剖学講座 顕微解剖・生体形成部門
28	J Orthop Res	2015年11月	Three-dimensional ultrastructural analysis of development at the supraspinatus insertion by using focused ion beam/scanning electron microscope tomography in rats	Kanazawa T	解剖学講座 顕微解剖・生体形成部門

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
29	SCIENTIFIC REPORTS	2015年12月	Anchoring structure of the calvarial periosteum revealed by focused ion beam/scanning electron microscope tomography	Hirashima S	解剖学講座 頭微解剖・生体形成部門
30	J Obstet Gynaecol Res	2015年	Changes in the nitric oxide-soluble guanylate cyclase system and natriuretic peptide receptor system in placentas of pregnant Dahl salt-sensitive rats	Takushima S	産婦人科
31	Mol Clin Oncol	2015年	Radiation effects on DNA content of cervical cancer cells -A rapid evaluation of radiation sensitivity by laser scanning cytometry	Fujiyoshi N	産婦人科
32	Obstet Gynecol Sci	2015年	Epithelial borderline ovarian tumor: Diagnosis and treatment strategy	Ushijima K	産婦人科
33	Kurume Med J	2015年	Predictors of abnormal glucose tolerance in the early postpartum period in patients with gestational diabetes	Inoue S	産婦人科
34	久留米医学会雑誌	2015年	婦人科がんの妊孕性温存療法	牛嶋公生	産婦人科
35	EBM がん化学療法・分子標的治療法	2015年	子宮体がんの術後化学療法が適応となるのはどのような患者か？	西尾 真	産婦人科
36	日耳鼻	2015年	嚥下障害に対する評価と手術	梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
37	耳鼻臨床	2015年	一側声帯麻痺に対する声帯内脂肪注入術	梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
38	内科	2015年	甲状腺濾胞腺腫と濾胞がんが共存した1例	江口 洋幸	内科
39	日耳鼻	2015年	喉頭乳頭腫60例の臨床統計	栗田 卓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
40	日気食会報	2015年	内視鏡下輪状咽頭筋切除術	千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
41	日気食会報	2015年	培養口腔粘膜を用いた声帯粘膜再生の試み	深堀光緒子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
42	喉頭	2015年	嚥下困難を主訴に受診した全身型破傷風の1症例	末吉慎太郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
43	口咽科	2015年	下咽頭癌に対するTransoral CO2 laser microsurgery (TLM)の適応と限界	千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
44	耳喉頭頸	2015年	嚥下障害:輪状咽頭筋切断術と喉頭挙上術	千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
45	日耳鼻	2015年	音声外科のすべて-過去から未来へ- 喉頭の枠組み手術	梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
46	喉頭	2015年6月	早期声門癌に対するTransoral Laser Microsurgery	千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
47	日気食会報	2015年11月	動的MRIを用いた嚥下咽頭期における中咽頭形態変化の解析	原口 正大	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
48	頭頸部癌	2015年12月	下咽頭局所進行癌に対する術前化学療法 の治療成績 - 臨床的奏功度と病理組織学的奏功度の 比較検討 -	進 武一郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
49	小児の精神と神経	2015年4月	ADHD単独群とASD合併群のサマートリートメント・プログラムとペアレントトレーニングの効果	家村明子	小児科
50	久留米医学会雑誌	2015年6月	ADHD児のための家庭生活評価尺度の信頼性および妥当性の検証	山下裕史朗	小児科
51	日本小児科学会雑誌	2015年7月	東日本大震災(2011)の被災地におけるロタウイルスワクチン無料接種事業の効果	岩田欧介	小児科
52	脳と発達	2015年7月	自閉症スペクトラム児(者)をもつ母親の養育レジリエンスの構成要素に関する質的研究	山下裕史朗	小児科
53	今日の小児治療指針 第16版	2015年9月	悪性高熱症	古賀 靖敏	小児科
54	別冊 日本臨床 骨格筋症候群(第2版)-その他の神経筋疾患を含めて 一下	2015年7月	ミトコンドリア呼吸鎖酵素複合体I(CI)欠損症	ハツ賀秀一、古賀 靖敏	小児科
55	別冊 日本臨床 骨格筋症候群(第2版)-その他の神経筋疾患を含めて 一下	2015年7月	ミトコンドリア呼吸鎖酵素複合体II(CII)欠損症	ハツ賀秀一、古賀 靖敏	小児科
56	別冊 日本臨床 骨格筋症候群(第2版)-その他の神経筋疾患を含めて 一下	2015年7月	ミトコンドリア呼吸鎖酵素複合体III(CIII)欠損症	ハツ賀秀一、古賀 靖敏	小児科
57	別冊 日本臨床 骨格筋症候群(第2版)-その他の神経筋疾患を含めて 一下	2015年7月	ミトコンドリア呼吸鎖酵素複合体IV(CIV)欠損症	ハツ賀秀一、古賀 靖敏	小児科

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
58	別冊 日本臨床 骨格筋症候群(第2版)―その他の神経筋疾患を含めて―	2015年7月	ミトコンドリア呼吸鎖酵素複合体V(CV)欠損症	ハツ賀 秀一、古賀 靖敏	小児科
59	Infect Immun	2015年3月	Role of the Nuclease of Nontypeable Haemophilus influenzae in Dispersal of Organisms from Biofilms	Christine Cho, Aroon Chande, Lokesh Gakhar, Lauren O. Bakaletz, Joseph A. Jurcisek, Margaret Ketterer, Jian Shao, Kenji Gotoh, Eric Foster, Jason Hunt, Erin O'Brien and Michael A. Apicella	小児科
60	Vaccine	2015年3月	Serologic response after vaccination against influenza (A/H1N1)pdm09 in children with renal disease receiving oral immunosuppressive drugs	Tanaka S, Saikusa T, Katafuchi Y, Ushijima K, Ohtsu Y, Tsumura N, Ito Y	小児科
61	臨床と研究	2015年9月	海外渡航者およびその家族のためのワクチン	津村直幹	小児科
62	小児外科	2015年11月	新生児ノロウイルス感染症を契機に発症した開腹歴のない腸閉塞	橋詰直樹	小児外科
63	Curr Treat Options Gastroenterol	2016年6月	Types of Peroral Cholangioscopy: How to Choose the Most Suitable Type of Cholangioscopy	Ishida Y	消化器内科
64	Best Pract Res Clin Gastroenterol	2015年8月	Can image-enhanced cholangioscopy distinguish benign from malignant lesions in the biliary duct?	Ishida Y	消化器内科
65	Coronary Intervention	2015年7月	分岐部におけるshear stressとその臨床的意義	村里嘉信	心臓・血管内科
66	Coronary Intervention	2015年7月	分岐部病変におけるステント治療の再考	村里嘉信	心臓・血管内科
67	田川医報	2015年	心房細動診療における抗凝固療法的重要性	中村俊博	心臓・血管内科
68	日本骨粗鬆症学会雑誌 Osteoporosis Japan	2015年	地域一般住民における骨代謝マーカー血清TRACP-5bと生活習慣や栄養摂取量との関連についての疫学的検討	深水亜子	心臓・血管内科
69	未病と抗老化	2015年6月	血清フェチリンA値とインスリン抵抗性との関連、一般住民における疫学的検討	大淵 綾	心臓・血管内科
70	臨床化学	2015年7月	活性酸素と腎臓病	杉山 美樹	腎臓内科
71	腎臓内科・泌尿器科	2015年5月	テストステロンと血液透析患者	植田 薫	腎臓内科
72	循環plus	2016年1月	腎障害とAGEs(終末糖化産物)	深水 圭	腎臓内科

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
73	八女筑後医報	2016年1月	慢性腎臓病の診断と最新の治療	深水 圭	腎臓内科
74	Int J Cardiology	2015年4月	Evaluation of tissue accumulation levels of advanced glycation end products by skin autofluorescence: A novel marker of vascular complications in high-risk patients for cardiovascular disease.	Yamagishi S, et al.	糖尿病性血管合併症病態治療学
75	Lab Invest	2015年4月	DNA aptamer raised against advanced glycation end products inhibits melanoma growth in nude mice.	Ojima A, et al.	糖尿病性血管合併症病態治療学
76	Immunol Lett	2015年10月	Development of a monoclonal antibody-based ELISA system for glyceraldehyde-derived advanced glycation end products.	Matsui T, et al	糖尿病性血管合併症病態治療学
77	日本放射線技術学会雑誌	2015年6月	脳血管疾患の治療 基礎講座 一脳の病 気:診断から治療まで一	折戸公彦	脳神経外科
78	日本医事新報	2015年6月	成人の慢性硬膜下血腫をみる 慢性硬膜下 血腫の診断ポイント 頭部CT、MRI所見から	宮城 知也	脳神経外科
79	脳卒中の外科	2015年6月	前脈絡叢動脈分岐部動脈瘤に対するクリッ ピングの治療成績	青木 孝親	脳神経外科
80	Japanese Journal of Endourology 28:258-262	2015年	Neoadjuvant hormonal therapy併用腹腔鏡 下 前立腺全摘除術(LRP)症例の臨床的検討	松尾 光哲	泌尿器科
81	皮膚病診療	2015年7月	【腎と皮膚】臨床例 IgA血管炎経過中に多 発壊死性筋膜炎を合併した症例	武藤 一考	皮膚科
82	日本小児皮膚科学会雑誌	2015年12月	石灰沈着を伴った若年性皮膚筋炎の1例	永田 寛	皮膚科
83	皮膚科の臨床	2016年1月	小児に生じた汎発型皮下型環状肉芽腫の1 例	荒川 正崇	皮膚科
84	臨床皮膚科	2016年2月	小児の手に多発した皮下型環状肉芽腫の1 例	丸田 康夫	皮膚科
85	Neuropathology.	2015年8月	Neurogenic pulmonary edema following cryptococcal meningoencephalitis associated with HIV infection.	Kondo R, Sugita Y, Arakawa K, Nakashima S, Umeno Y, Todoroki K, Yoshida T, Takase Y, Kage M, Oshima K, Yano H.	病理診断科・病 理部

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
86	J Gastroenterol.	2015年8月	Association of serum IFN- λ 3 with inflammatory and fibrosis markers in patients with chronic hepatitis C virus infection.	Aoki Y, Sugiyama M, Murata K, Yoshio S, Kurosaki M, Hashimoto S, Yatsunami H, Nomura H, Kang JH, Takeda T, Naito S, Kimura T, Yamagiwa Y, Korenaga M, Imamura M, Masaki N, Izumi N, Kage M, Mizokami M, Kanto T.	病理診断科・病理部
87	J Clin Pathol.	2015年8月	Blood and lymphatic vessel invasion in pT1 colorectal cancer: an international concordance study.	Kojima M, Puppa G, Kirsch R, Basturk O, Frankel WL, Vieth M, Lugli A, Sheahan K, Yeh M, Lauwers GY, Risio M, Shimazaki H, Iwaya K, Kage M, Akiba J, Ohkura Y, Horiguchi S, Shomori K, Kushima R, Nomura S, Ajioka Y, Adsay V, Ochiai A.	病理診断科・病理部
88	J Gastroenterol.	2015年7月	Association between Wisteria floribunda agglutinin-positive Mac-2 binding protein and the fibrosis stage of non-alcoholic fatty liver disease.	Abe M, Miyake T, Kuno A, Imai Y, Sawai Y, Hino K, Hara Y, Hige S, Sakamoto M, Yamada G, Kage M, Korenaga M, Hiasa Y, Mizokami M, Narimatsu H.	病理診断科・病理部
89	Hepato Res.	2016年2月	Successful treatment with 4-phenylbutyrate in a patient with benign recurrent intrahepatic cholestasis type 2 refractory to biliary drainage and bilirubin absorption.	Hayashi H, Naoi S, Hirose Y, Matsuzaka Y, Tanikawa K, Igarashi K, Nagasaka H, Kage M, Inui A, Kusuhara H.	病理診断科・病理部
90	Pediatr Int.	2016年2月	Effects of 4-phenylbutyrate therapy in a preterm infant with cholestasis and liver fibrosis.	Ito S, Hayashi H, Sugiura T, Ito K, Ueda H, Togawa T, Endo T, Tanikawa K, Kage M, Kusuhara H, Saitoh S.	病理診断科・病理部
91	J Clin Pathol.	2016年3月	The expression of arginase-1, keratin (K) 8 and K18 in combined hepatocellular-cholangiocarcinoma, subtypes with stem-cell features, intermediate-cell type.	Akiba J, Nakashima O, Hattori S, Naito Y, Kusano H, Kondo R, Nakayama M, Tanikawa K, Todoroki K, Umemo Y, Nakamura K, Sanada S, Yamaguchi R, Ogasawara S, Yano H.	病理診断科・病理部
92	PLoS One	2015年5月	PSMC5, a 19S Proteasomal ATPase, Regulates Cocaine Action in the Nucleus Accumbens.	大西 克典	薬理学講座
93	日本急性血液浄化学会雑誌	2015年10月5日	Polymethylmethacrylate膜hemofilterの膜面積の違いによるサイトカインの吸着除去性能と回路内圧の臨床的比較検討	山香 修	臨床工学センター
94	Int J Cardiology	2015年4月	Evaluation of tissue accumulation levels of advanced glycation end products by skin autofluorescence: A novel marker of vascular complications in high-risk patients for cardiovascular disease.	Yamagishi S, et al.	糖尿病性血管合併症病態治療学
95	Lab Invest	2015年4月	DNA aptamer raised against advanced glycation end products inhibits melanoma growth in nude mice.	Ojima A, et al.	糖尿病性血管合併症病態治療学
96	Immunol Lett	2015年10月	Development of a monoclonal antibody-based ELISA system for glyceraldehyde-derived advanced glycation end products.	Matsui T, et al	糖尿病性血管合併症病態治療学
97	日本小児放射線学会雑誌	2015年	「血管腫・血管奇形に対するIVR最先端」2. 血管腫及び血管奇形の画像診断	長田周治	放射線科

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
98	臨床と研究	2015年	前立腺がんの診断 画像診断	角 明子	放射線科
99	日獨医報	2015年	画像診断の治療への貢献—CT/MRIを中心に—9.骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的椎体形成術:Updates	田中法瑞	放射線科
100	化学療法の領域	2015年	画像から読み解く感染症(4)Ⅱ頭頸部 1.真菌性副鼻腔炎の画像診断	田中法瑞	放射線科
101	JSIR	2015年	インターベンショナルラジオロジー(IVR)における放射線防護の基本—ちょっと知れば役立つあれこれ—	安陪等思	放射線科
102	臨床放射線臨時増刊号	2015年	胸部 炎症性疾患 急性・亜急性の呼吸障害をきたす非感染性肺疾患	岩本良二	放射線科
103	映像情報メディカル	2015年	CT術前シミュレーション診断の実際～3次元画像診断の現状	内田政史	放射線科
104	乳癌の臨床	2015年	放射線有害反応と対策⑤ 放射線肺臓炎と対症療法	淡河恵津世	放射線治療センター
105	日本胸部臨床	2016年	後縦隔(脊椎傍区画)腫瘍性病変	本廣賢子	放射線科
106	日本レーザー医学会誌	2015年4月	扁平母斑とベッカー母斑に対するレーザー治療	王丸陽光	形成外科・顎顔面外科
107	PEPARS	2015年6月	小児における顔面扁平母斑のレーザー治療	王丸陽光	形成外科・顎顔面外科
108	PEPARS	2016年3月	扁平母斑のレーザー治療	王丸陽光	形成外科・顎顔面外科
109	障害者歯科	2015年10月	ダウン症候群者およびその家族の定期歯科受診行動に影響する要因に関する質的研究	久篠奈苗	歯科口腔医療センター
110	Asia Pacific Knee, Arthro	2015年	Electromyographic study of rotator cuff muscle activity during full and empty can tests.	山田 圭	整形外科
111	J Spine Res 6:1347-1353	2015年	Epidemiology and conservative treatment for pediatric atlantoaxial rotatory fixation.—Retrospective study in 143 pediatric patients.	山田 圭	整形外科

小計14

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
112	J Spine Res. 6:1354-1362	2015年	Evaluation of the alarm criteria for transcranial electrical stimulation muscle evoked potential in spinal deformity surgery: Multi-institutional survey by the spinal cord monitoring committee of the Japanese Society for Spine Surgery and Related Research.	山田 圭	整形外科
113	J Orthop Res.	2015年	Effects of corticosteroids and hyaluronic acid on torn rotator cuff tendons in vitro and in rats.	中村 秀裕	整形外科
114	Hand Surgery 20(3)	2015年	Frequency of scapholunate ligament injuries associated with distal radius shearing fracture: correlation of fracture patterns and ligament tear	吉田 史郎	整形外科

小計3
合計
114

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
手順書の主な内容 任務、組織、運営等、審議に関するもの	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 委員会の構成、運営、審議事項等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 臨床研究、治験に関する臨床試験セミナーを年1回以上実施している。	

	診療科	研修内容	統括者氏名		
1	内科	上部内視鏡検査	消化器内科	鳥村 拓司	
		腹部エコー検査			
		心臓カテーテル検査、冠動脈形成術、末梢動脈形成術	心臓・血管内科	福本 義弘	
		心エコー・経食道エコー検査			
		ペースメーカー・除細動器植え込み術、心臓再同期療法術	腎臓内科	深水 圭	
		血液透析を含む血液浄化に関する研修			
		ソマトチンアナログと人工膵臓によるインスリン抵抗性と降β細胞機能の評価	内分泌代謝内科	山田 研太郎	
		エコーガイド下における甲状腺腫瘍に対する穿刺吸引細胞診			
2	小児科	小児不整脈に対するカテーテルアブレーション治療	小児科	古賀 靖敏	
		重症新生児仮死に対する脳低温療法			
		心房中隔欠損症に対するカテーテルアンブリッツァー治療			
		Rett症候群に対するグレリン治療			
		ミトコンドリア脳筋症に合併する高乳酸血症に対するビルビン酸ナトリウム治療法			
3	整形外科	整形外科疾患に対する診察診断技術と術式の研修、周術期の管理	整形外科	志波 直人	
4	形成外科・顎顔面外科	形成外科基本的理論研修(創傷治療、皮膚切開、皮膚縫合、真皮縫合、探皮、植皮)	形成外科・顎顔面外科	清川 兼輔	
		形成外科基本的手術手技の研修(局所麻酔手術の執刀)			
5	脳神経外科	脳血管撮影	脳神経外科	森岡 基浩	
		神経内視鏡手術			
		穿頭手術			
6	外科	一般外科・小児外科研修	小児外科	八木 実	
		上部消化管(造影)検査	外科	赤木 由人	
		上部消化管(内視鏡)検査			
		下部消化管(造影)検査			
		下部消化管(内視鏡)検査			
		マンモグラフィ読影			
		乳腺エコー検査			
		頸部リンパ節生検			
		3D-CTデータの脈管・臓器立体画像作成と臨床解剖の理解、腹部超音波検査、経皮経肝的ドレーナージ術ならびに腹腔内腫瘍穿刺ドレーナージ術			奥田 康司
		ABI検査			田中 啓之
7	皮膚科	皮膚科学の各論および基本的手技に関する研修			皮膚科
8	泌尿器科	腹部エコー検査、透視下造影検査	泌尿器科	井川 掌	
9	産婦人科	ハイリスク妊婦に対する高度周産期医療	産婦人科	牛嶋 公生	
10	眼科	眼科基本的診察および治療の学習	眼科	山川 良治	
		網膜光凝固術などの眼科処置の習得			
11	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	耳鼻咽喉科疾患に対する診察診断技術と手術の研修、周術期の管理	耳鼻咽喉科	梅野 博仁	
12	精神神経科	精神神経科専門研修	精神神経科	内村 直尚	
13	放射線科	MRI・CTの総合的画像診断学理解と読影手技の研修	放射線科	安陪 等思	
		放射線治療の位置決め並びに治療の理解研修に関する研修			
		核医学の読影手技と適応疾患と核種の理解に関する研修			
14	歯科口腔医療センター	インプラント手技勉強会	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟	
15	麻酔科	手術麻酔(術中麻酔管理)	麻酔科	牛島 一男	
16	高度救命救急センター	救急医療	高度救命救急センター	高須 修	

研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職	臨床経験年数	特記事項
星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	診療部長	27	
谷脇 考恭		診療部長	31	
井田 弘明		診療部長	28	
鳥村 拓司	消化器内科	診療部長	33	
福本 義弘	心臓・血管内科	診療部長	25	
深水 圭	腎臓内科	診療部長	23	
山田 研太郎	内分泌代謝内科	診療部長	38	
長藤 宏司	血液・腫瘍内科	診療部長	27	
内村 直尚	精神神経科	診療部長	33	
古賀 靖敏	小児科	診療部長	40	
赤木 由人	外科	診療部長	29	
田中 啓之		診療部長	34	
奥田 康司		診療部長	37	
志波 直人	整形外科	診療部長	33	
清川 兼輔	形成外科・顎顔面外科	診療部長	32	
森岡 基浩	脳神経外科	診療部長	30	
八木 実	小児外科	診療部長	33	
名嘉真 武國	皮膚科	診療部長	28	
井川 掌	泌尿器科	診療部長	27	
牛嶋 公生	産婦人科	診療部長	32	
山川 良治	眼科	診療部長	36	
梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	診療部長	27	
安陪 等思	放射線科	診療部長	31	
楠川 仁悟	歯科口腔医療センター	診療部長	28	
牛島 一男	麻酔科	診療部長	37	
高須 修	高度救命救急センター	センター長	26	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 志波 直人
管理担当者氏名	診療関係：各診療科部長（別紙1） 管理関係：事務部長 坂田 哲

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	①紙媒体（入院）：平成15年4月1日以降に退院した患者の診療録及び診療諸記録に関しては、ID番号を付与しターミナルデジット方式にて医療情報センター診療情報管理部門及び外部倉庫で保管。エックス線写真は各外来診療科・セミアクティブカルテ室（総合診療棟3階）・各診療科の医局及び資料室で保管。平成15年3月31日以前に退院した患者の診療録及び診療諸記録に関しては、各診療科独自の管理番号付与方式にて各診療科の医局及び資料室・外部倉庫にて保管。 （外来）：最終受診日から1年以内の診療録及び診療諸記録に関しては、ID番号を付与し、ターミナルデジット方式にて各外来診療科にて保管。1年以上経過した診療諸記録に関しては、ターミナルデジット及び各診療科独自の管理番号を付与し、セミアクティブカルテ室（病院本館西2階・総合診療棟3階）・各診療科の医局及び資料室・外部倉庫にて保管。 ②電子媒体（入院/外来共通）平成25年10月1日以降に発生する診療録及び診療諸記録は、入院・外来ともに電子媒体に保管。
		各科診療日誌	
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課
		高度の医療の提供の実績	病院管理課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課
		高度の医療の研修の実績	病院管理課
		閲覧実績	病院管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	病院管理課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院経営室 薬剤部
	規則	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		各部門ごとに、電子媒体や紙ファイルにて保管・管理している。 以下同じ	

	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

管理担当者一覧

診療科	管理担当者氏名	診療科	管理担当者氏名
呼吸器・神経・膠原病内科	星野 友昭	泌尿器科	井川 掌
消化器内科	鳥村 拓司	産婦人科	牛嶋 公生
心臓・血管内科	福本 義弘	眼科	山川 良治
腎臓内科	深水 圭	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	梅野 博仁
内分泌代謝内科	山田 研太郎	放射線科	安陪 等思
血液・腫瘍内科	長藤 宏司	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
精神神経科	内村 直尚	麻酔科	牛島 一男
小児科	山下 裕史朗	高度救命救急センター	高須 修
外科	赤木 由人	呼吸器病センター	星野 友昭
	田中 啓之	消化器病センター	鶴田 修
整形外科	志波 直人	循環器病センター	田中 啓之
形成外科・顎顔面外科	清川 兼輔	内科総合外来	山田 研太郎
脳神経外科	森岡 基浩	乳腺外科・一般外科総合外来	赤木 由人
小児外科	八木 実	薬剤部	八木 実
皮膚科	名嘉真 武國		

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 志波 直人	
閲覧担当者氏名	診療関係：各診療科部長（別紙1）管理関係：事務部長 坂田哲	
閲覧の求めに応じる場所	第3会議室	
閲覧の手続の概要		
「病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧請求書」を提出し、病院長決裁後、第3会議室にて閲覧。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医 師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

閱 覧 担 当 者 一 覧

診 療 科	管理担当者氏名	診 療 科	管理担当者氏名
呼吸器・神経・膠原病内科	星野 友昭	泌尿器科	井川 掌
消化器内科	鳥村 拓司	産婦人科	牛嶋 公生
心臓・血管内科	福本 義弘	眼 科	山川 良治
腎臓内科	深水 圭	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	梅野 博仁
内分泌代謝内科	山田 研太郎	放射線科	安陪 等思
血液・腫瘍内科	長藤 宏司	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
精神神経科	内村 直尚	麻酔科	牛島 一男
小児科	山下 裕史朗	高度救命救急センター	高須 修
外 科	赤木 由人	呼吸器病センター	星野 友昭
	田中 啓之	消化器病センター	鶴田 修
整形外科	志波 直人	循環器病センター	田中 啓之
形成外科・顎顔面外科	清川 兼輔	内科総合外来	山田 研太郎
脳神経外科	森岡 基浩	乳腺外科・一般外科総合外来	赤木 由人
小児外科	八木 実	薬剤部	八木 実
皮膚科	名嘉真 武國		

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 安全管理に関する基本的考え方2. 安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本的事項3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方針に関する基本方針5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針7. 患者からの相談への対応に関する基本方針8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有・無)</p> <p>・ 開催状況：年 1 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">● 医療の安全管理の啓蒙、普及、徹底及びその評価を図るための必要な事項● 医療安全管理マニュアルの作成及び各部署の安全対策マニュアル作成指導● インシデント事例、事故の情報収集及び原因分析、再発防止対策の策定● 委員会で立案された再発防止対策の実施状況調査及び見直し● 医療事故等の事実調査、対策及び処置に関する事項● リスクマネジャー会議の招集● 診療情報開示に関しての諮問及び相談に対する対応● その他委員長が必要と認める事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 5 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医薬品の安全使用について・ 中央管理医療機器の貸出しと返却について・ インシデント・医療事故と対策、医療訴訟について・ 医療用麻薬の安全使用について・ 医療機器の安全使用に関する研修・ 転倒・転落予防ワーキンググループの取り組みについて・ 患者の権利、医療倫理、個人情報保護法について <p style="text-align: right;">など</p>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

- インシデント小委員会で内容の審議、対策立案、周知。セイフティーコントロール委員会部署巡回にてマニュアルや通達の遵守状況、再発防止策実施状況の確認、医療安全対策リンクナース委員会で問題点抽出、計画、実施、評価し改善活動を実施、医療安全管理対策委員会にて報告し共有

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療関連感染対策に関する基本的な考え方2. 委員会等の組織に関する基本的事項3. 職員研修に関する基本方針4. 感染発生状況の報告に関する基本方針5. 感染発生時対応に関する基本指針6. 指針の閲覧に関する基本方針7. その他医療関連感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>VRE 積極的監視培養の結果報告、ICT からの活動報告（抗生剤適正使用状況監視・サーベイランス結果報告・針刺し・切創報告・ICT 活動（週 1 回程度の病棟ラウンド）状況・LN 会活動状況報告等）</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 1 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>標準予防策、経路別感染予防対策、手指衛生、抗生剤適正使用、針刺し・切創対策、感染症トピックスなど</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>血培陽性者および感染症法に定められた感染症に関する菌（耐性菌）・ウイルスに関しては平日、感染制御部スタッフが電子カルテ上で確認、その都度アウトブレイク対応表に順じて ICD/ICN が介入している。また、昨年より検査部門・全入院患者部門・NICU 部門において JANIS に参加している。耐性菌発生時は状況に応じて、管轄保健所や九州厚生局などへの報告を行っている。院内感染対策推進としては、院内で ICT/LN 活動を積極的に行い、病棟出張勉強会にも力を入れている。また院外では地域病院と連携し研修・講習会等を実施している。</p>	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容： 平成28年6月17日 第128回久留米大学病院TQM講習会 「医薬品の安全使用について」	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： ・ 病棟・外来の定数配置薬の管理状況の定期的チェック (定数見直し、数、有効期限も含む) ・ 麻薬・向精神薬の管理状況の定期的チェック ・ 手順書遵守状況の確認 (ダブルチェック、指示出し、指示受け等)	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 未承認薬について、病院倫理委員会を担当部門として、未承認新規医薬品等評価委員会を設置し、適切な使用方法等を審議し、使用の情報を得ている。 ・ 日本医療機能評価機構の医療安全情報を電子カルテ上に載せ、各病棟に配布し、医師、看護師等に周知徹底をはかる。 ・ PMDAからの医薬品適正使用のお願いを電子カルテ上に載せ、使用する病棟・外来に配布する。 ・ 安全性速報等、緊急性のある医薬品情報は電子カルテ上に載せ、病棟・外来に配布するとともに、オーダリング掲示板、電子カルテメッセージを全職員に送信し、リアルタイムに情報を配信する。	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年37回
・ 研修の主な内容： ① 人工呼吸器：患者さんに安全な人工呼吸器療法及び構造、アラームおよび対処法 ② 閉鎖式保育器：保育器管理におさえておきたい基本 ③ 血液浄化装置：血液浄化の安全管理、緊急時及びアラーム時の対処について ④ 人工心肺装置及び補助循環装置：安全な取扱い、緊急時の対処法、日常の管理について ⑤ 除細動装置：基本的な構造及び使用方法、日常点検、注意事項について ⑥ MRI装置の磁場体験 ⑦ 放射線治療装置の精度管理及び出力測定	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 人工呼吸器、閉鎖式保育器、血液浄化装置、人工心肺装置及び補助循環装置、除細動装置については年に1回の定期点検及び必要な部品の交換、日常の保守管理を行っている。また、画像診断機器関係については、始業・終業点検、メーカーによる定期点検、自主点検等を実施している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器安全情報については多方面より情報の収集を行い、より重要な情報については、医療機器管理小委員会、医療安全管理対策委員会に報告、また、各病棟・外来、関係講座に「安全情報」として電子カルテ上に掲載することにより院内への周知をおこなっている。また、X線装置の自動露出機構の点検（撮影線量の適正化）、パルス透視の利用による被ばく線量の低減、新規導入装置およびバージョンアップ時の説明会等も実施している。	

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <ul style="list-style-type: none">● 医療安全管理部長を医療安全管理責任者として配置し医療安全担当副院長である● 医療安全、医薬品安全及び 医療機器安全について必要な知識を有している● 医療安全に関わる研修を定期的に受講している● 病院長と連携し各部門の安全管理業務を監視する● 専門分野責任者と連携し、各部門の安全管理を推進・指導する● 重大事例について医療安全管理対策委員会で報告し審議する● 医療安全上の課題への対策について周知、指導する	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (5名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 日本医療機能評価機構の医療安全情報を電子カルテ上に載せ、各病棟に配布し、医師、看護師等に周知徹底をはかる。 PMDAからの医薬品適正使用のお願いを電子カルテ上に載せ、使用する病棟・外来に配布する。 安全性速報等、緊急性のある医薬品情報は電子カルテ上に載せ、病棟・外来に配布するとともに、オーダリング掲示板、電子カルテメッセージを全職員に送信し、リアルタイムに情報を配信する。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認薬について、病院倫理委員会を担当部門として、未承認新規医薬品等評価委員会を設置し、適切な使用方法等を審議し、使用の情報を得ている。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有・無)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・規程の主な内容：</p>	

- インフォームド・コンセントについては、その方法を標準化するため、実施手順、説明書に記載すべき内容等を医療安全管理マニュアルに記載している。さらに、診療情報・システム管理委員会で月に2回、4診療科のサブリスクマネジャー（病棟医長、看護師長）が相互に診療情報録のIC記録を含めた監査を実施し、チェックリストに基づいて診療録等の記載内容を確認しており、確実にインフォームド・コンセントが実施されるよう記載方法や内容等の指導を行っている。
- 説明時の同席者については、看護部で同席基準を作成し、同席率を毎月算出することによりその確認を行っている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

・活動の主な内容：

- 診療情報・システム管理委員会委員長を責任者として配置している。
- 定期的に診療録等の記載内容の確認を行うこととし、必要に応じて、記載方法や内容の指導を行っている。
- 診療情報・システム管理委員会で月に2回、定期的に4診療科のサブリスクマネジャー（病棟医長、看護師長）が相互に診療情報録の監査を実施している。チェックリストに基づいて診療録等の記載内容を確認し、必要に応じて記載方法や内容の指導を行っている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

・所属職員：専従（6）名、専任（1）名、兼任（7）名
 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名
 うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名
 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
 うち臨床工学技師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名
 うち事務職員：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（4）名

・活動の主な内容：

- 医療安全管理委員会に係る事務は医療安全管理委員会資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理対策委員会の庶務に関することを行う
- 医療事故防止に関する提案、職員への周知
- 医療事故・インシデントの収集と集計、分析、対策の実施確認
- 医療事故発生時の状況確認、支援及び指導に関すること
- 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載についての、確認及び指導

- 医療事故等の原因究明と再発防止への取り組みについての、確認及び指導
- 医療機関等の医療安全に関わる情報収集および医療安全情報の発行、配布
- 医療安全管理マニュアル等の作成、整備
- 医療安全管理部カンファレンスの実施
- 医療安全に係る連絡調整に関すること
- その他医療安全対策の推進に関すること
- 医療安全管理部門に専従の医師、看護師を配置、専任の薬剤師を配置している

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無 (有・無)
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有・無)
- ・ 規程の主な内容

計画書の提出あり

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有・無)
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有・無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有・無)
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (一部有・無)

※未承認新規医薬品等の使用の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程は有り

- ・ 規程の主な内容 :
- 病院倫理委員会のもとに未承認新規医薬品等評価委員会を設置し、その委員会の規程として、職員が遵守すべき事項や、委員会が確認すべき事項等を定めた。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有・無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有・無)

⑨ 監査委員会の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 回 ・ 活動の主な内容： 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p style="font-size: 24px; margin: 0;">計画書の提出あり</p> </div>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の業務 ・ 委員名簿の公表の ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法： 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：378 件

(2015年10月1日～2016年8月31日)

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年0件

・医療安全管理委員会の活動の主な内容

死亡症例報告書件数、医療事故調査支援センター報告の有無の報告

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院への立入り（有）（病院名：兵庫医科大学（平成27年度））・無

・他の特定機能病院からの立入り受入れ（有）（病院名：兵庫医科大学（平成27年度））・無

・技術的助言の実施状況

毎年、日本私立医科大学協会医療安全・感染相互ラウンドにより、他の特定機能病院と連携して相互立入りを実施している。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

● 患者相談窓口に関する規約に沿って実施

● 医療安全管理部は、相談窓口担当者と連携を図り、医療安全対策に係る患者・家族の相談に適切に応じる体制を支援

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有）無

・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有）無

・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有）無

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

医療安全管理に関する職員研修について、平成27年度は医薬品・医療機器の安全使用やインシデント・医療事故と対策、医療訴訟等をテーマに年15回開催している。

今後は、TQM講習会のテーマとして、診療ルール、インシデント・アクシデント報告のルール、インフォームド・コンセント、具体的事例の改善策等を定期的に取り上げる予定としている。

講習会の効果については、講習会の内容に沿った設問の作成及び問題の回答率確認、DVD講習等も実施している。また、e-learningの活用については現在検討中である。

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

計画書の提出あり

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 平成27年8月7日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・情報発信の方法、内容等の概要 クリニカルインディケーター (CI) を久留米大学病院のHPに掲載。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ● 消化器病センター (消化器内科・消化器外科)、循環器病センター (心臓血管外科・心臓・血管内科)、呼吸器病センター (呼吸器外科・呼吸器内科) を外来部門に設置している。 ● キャンサーボードを開催し、がん治療の診療方針の検討等を行っている。	